

2022年度第1四半期 決算スライド補足資料

2022年5月13日

楽天グループ株式会社



連結業績

Q1/22 売上収益と営業利益*1

(単位：十億円)

	Q1/21	Q1/22	YoY
コア事業*2			
売上収益	332.7	360.2	+8.3%
営業利益	35.9	42.3	+17.7%
市場変動型等／投資事業*3			
売上収益	37.4	35.4	-5.4%
営業利益	37.7	2.5	-93.2%
将来の成長に向けた先行投資型事業*4			
売上収益	62.3	88.7	+42.5%
営業利益	-105.1	-139.1	-34.1
調整額			
売上収益	-40.8	-47.1	-6.3
営業利益	-0.1	-4.0	-3.9
連結			
売上収益	391.5	437.1	+11.7%
Non-GAAP 営業利益	-31.6	-98.3	-66.7
IFRS 営業利益	-37.3	-112.6	-75.3

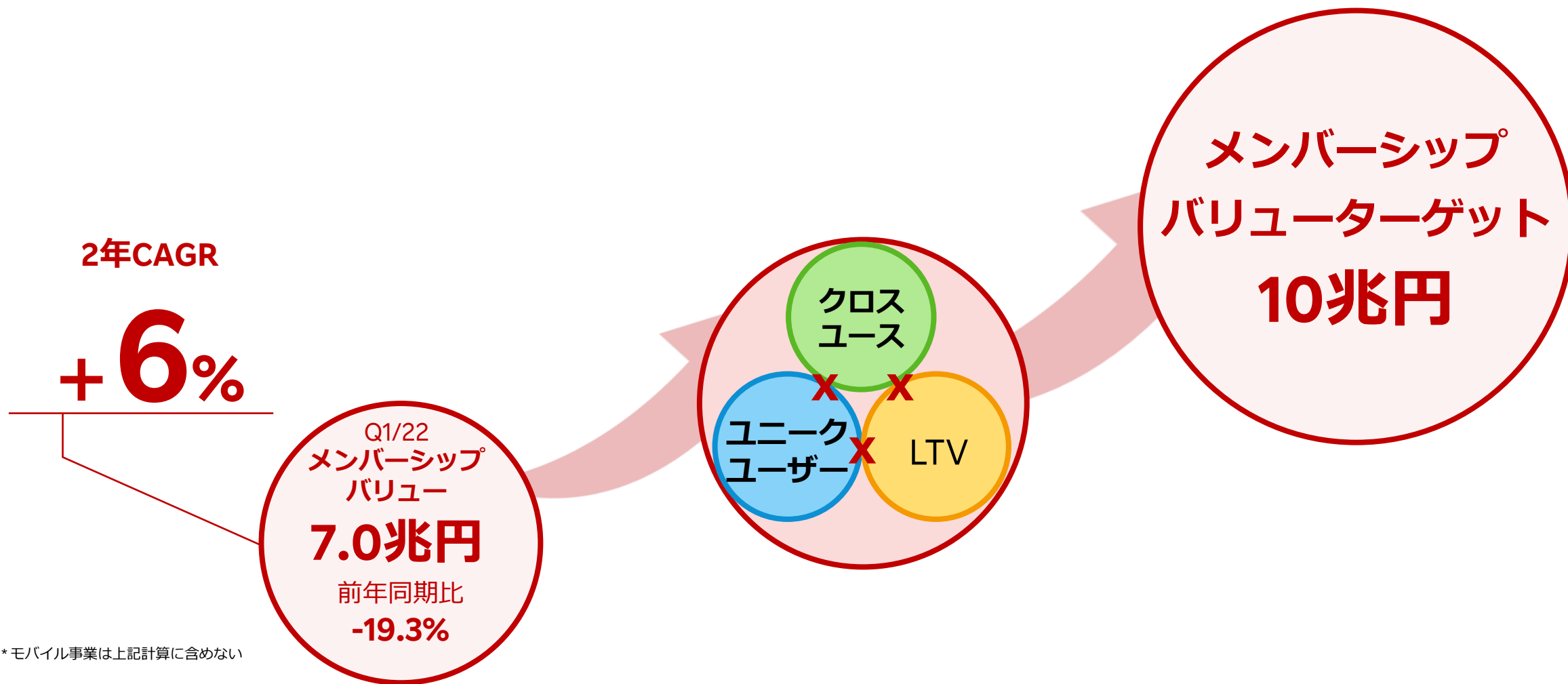
*1 セグメント変更に伴い、Q2/21より「コア事業」「市場変動型等／投資事業」及び「将来の成長に向けた先行投資型事業」の定義を以下の通りに変更

*2 「市場変動型等／投資事業」及び「将来の成長に向けた先行投資型事業」を除くすべての事業

*3 楽天証券、楽天損保及びマイノリティー投資

*4 物流事業及びモバイルセグメントに含まれるすべての事業

楽天エコシステムの超拡大*

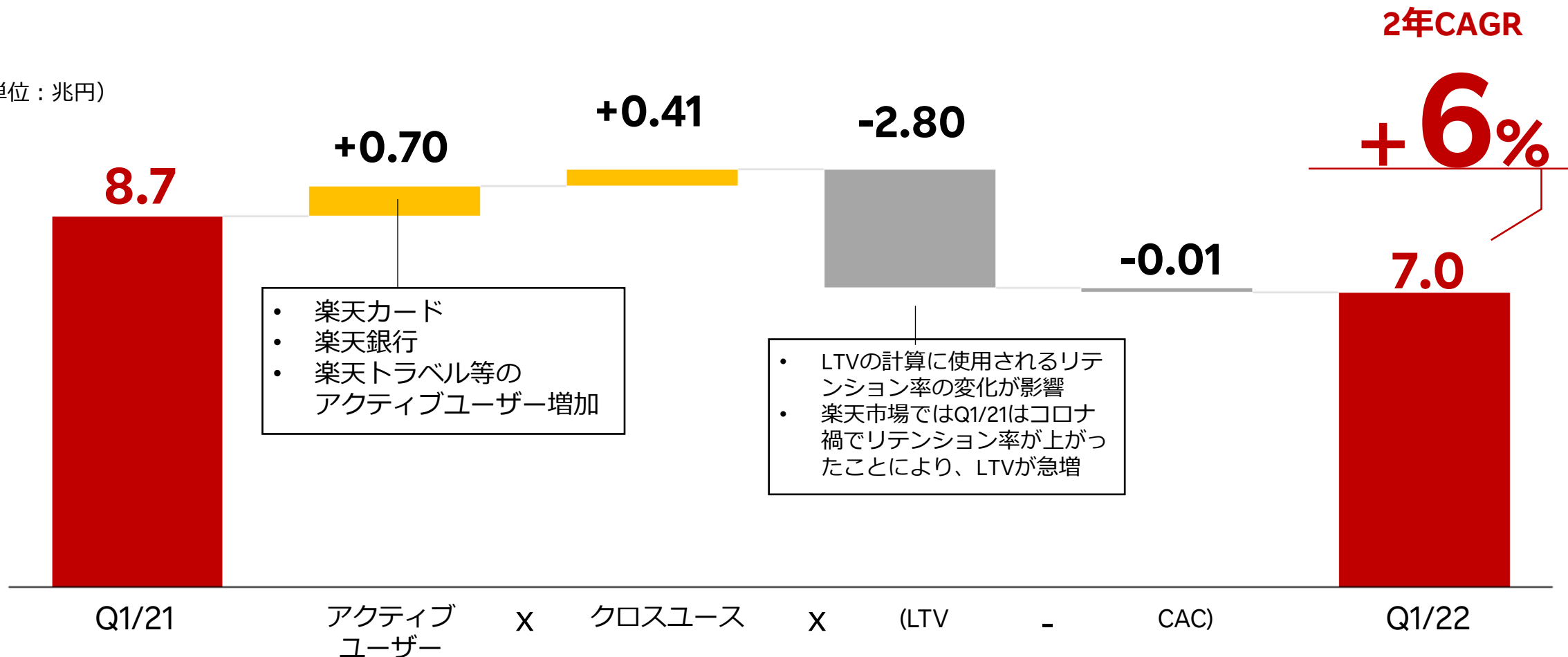


*モバイル事業は上記計算に含めない

楽天エコシステムのメンバーシップバリュー

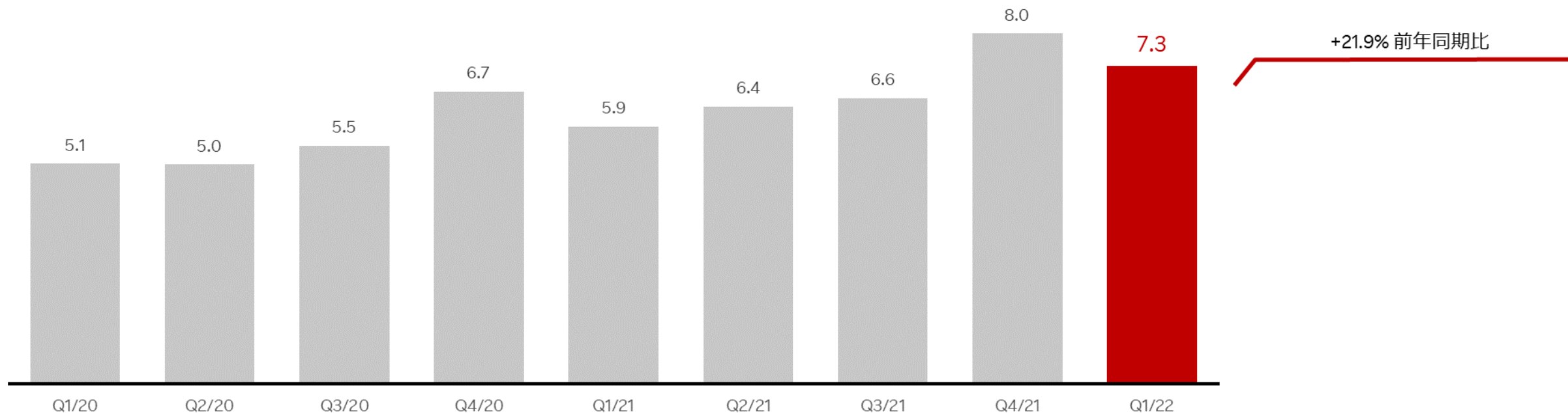
フィンテックや楽天トラベルのアクティブユーザー数が増加し、楽天エコシステム内のクロスユースも堅調に推移した一方、楽天市場は昨年コロナ禍でリテンション率が上昇したことによりLTVが急増した反落でLTVが減少。メンバーシップバリューの2年CAGRは+6%と順調に拡大。

(単位：兆円)



グローバル流通総額*1*2

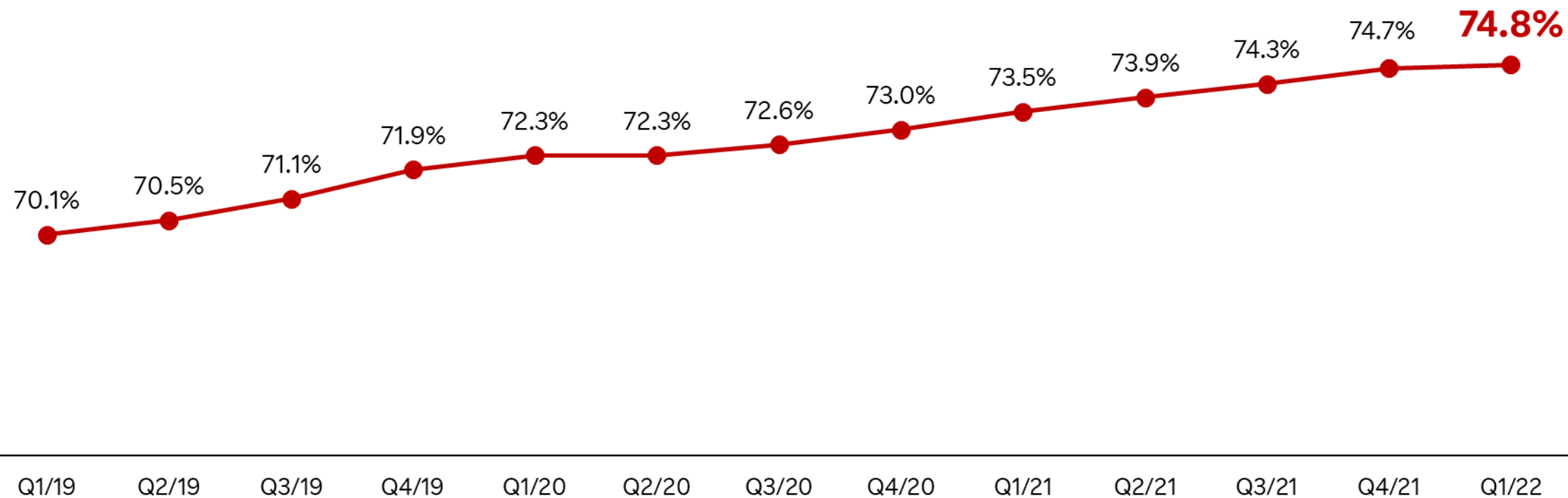
(単位：兆円)



*1グローバル流通総額 = 国内EC流通総額 + クレジットカードショッピング取扱高 + 楽天Edy決済取扱高 + 楽天ペイ決済取扱高 + 楽天ポイントカード取扱高 + 海外EC流通総額 + Rakuten Rewards (Ebates) 流通総額 + デジタルコンテンツ取扱高 + Rakuten Advertising (Rakuten Marketing) 取扱高

*2決済・アフィリエイトサービスには、楽天グループ内取引を含む

クロスユース率*の拡大



*過去12か月間における2サービス以上利用者数／過去12か月間における全サービス利用者数 (2021年9月末時点)
(楽天ポイントが獲得可能なサービスの利用に限る)

Q1/22 連結業績サマリー

(単位：十億円)

	Q1/21	Q1/22	前年同期比
売上収益	391.5	437.1	+11.7%
Non-GAAP 営業利益	-31.6	-98.3	-66.7
Non-GAAP 営業利益 モバイルセグメント、物流事業、 マイノリティー投資の損益除く	42.3	42.0	-0.7%
IFRS 営業利益	-37.3	-112.6	-75.3

Q1/22 売上収益と営業利益*

(単位：十億円)

		Q1/21	Q1/22	前年同期比
国内EC	売上収益	163.1	182.5	+11.9%
	営業利益	12.1	21.5	+77.3%
その他	売上収益	61.8	63.3	+2.4%
	営業利益	29.4	-3.5	-32.9%
インターネットサービスセグメント				
	売上収益	224.9	245.8	+9.3%
	営業利益	41.6	18.0	-56.7%
フィンテックセグメント				
	売上収益	151.6	158.1	+4.3%
	営業利益	24.5	22.8	-7.3%
モバイルセグメント				
	売上収益	55.8	80.4	+44.0%
	営業利益	-97.6	-135.0	-37.4%
調整額				
	売上収益	-40.8	-47.1	-6.3%
	営業利益	-0.1	-4.0	-3.9%
連結				
	売上収益	391.5	437.1	+11.7%
	Non-GAAP 営業利益	-31.6	-98.3	-66.7%
	IFRS 営業利益	-37.3	-112.6	-75.3%

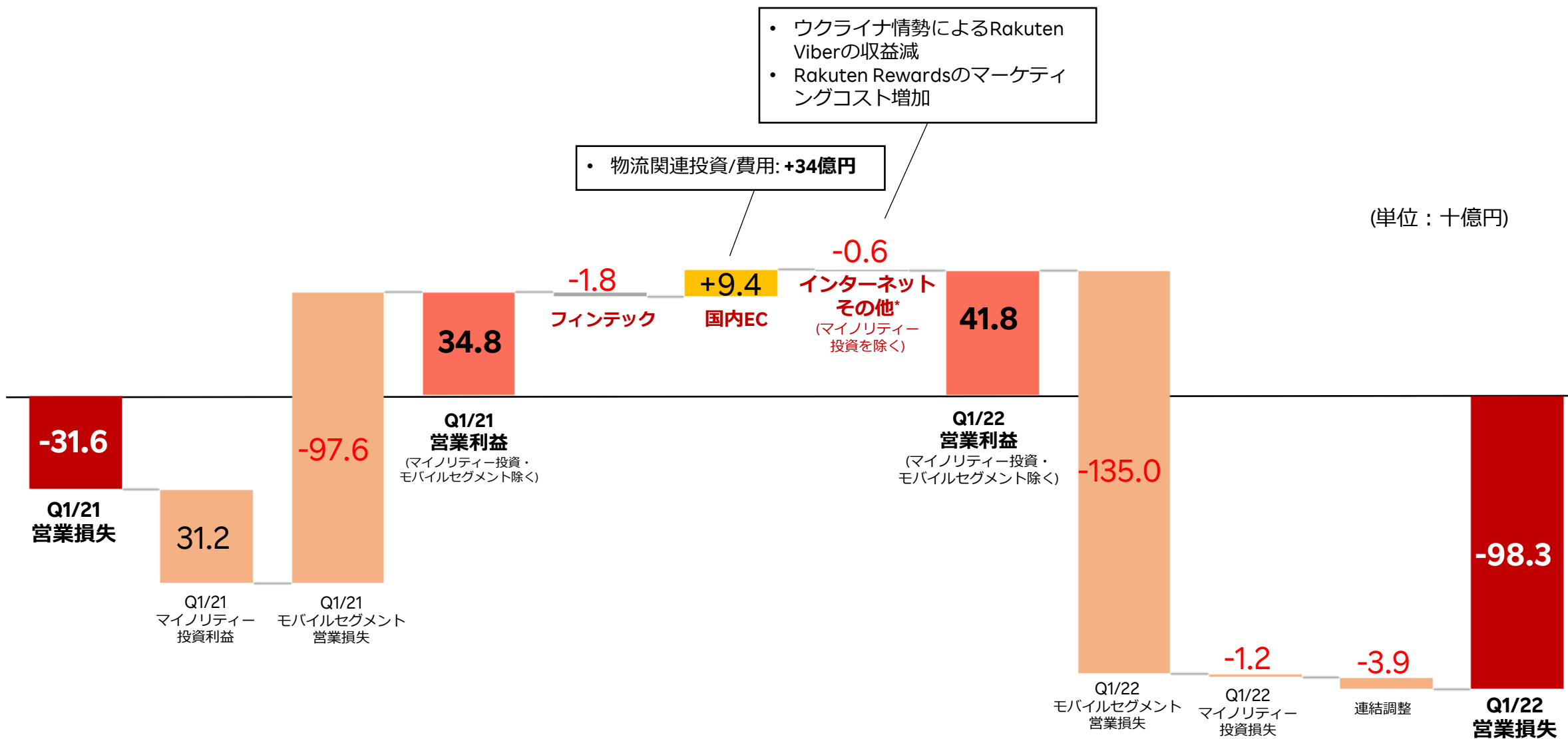
* Q4/20に、コンテンツ関連事業をインターネットサービスセグメントからモバイルセグメントに移管。更に、Q2/21より、北米地域でデジタルコンテンツサイト等の運営を行う一部の事業及びViber等、一部の事業をモバイルセグメントからインターネットサービスセグメントに移管。また、Q4/21より、ボックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

Q1/22 Non-GAAP營業利益調整額

(單位：十億円)

	Q1/21	Q1/22	前年同期比
Non-GAAP營業利益	-31.6	-98.3	-66.7
無形資産償却費 (PPA)	-2.6	-2.2	+0.4
株式報酬費用	-3.2	-3.5	-0.3
非經常的な項目	0.0	-8.6	-8.6
IFRS營業利益	-37.3	-112.6	-75.3

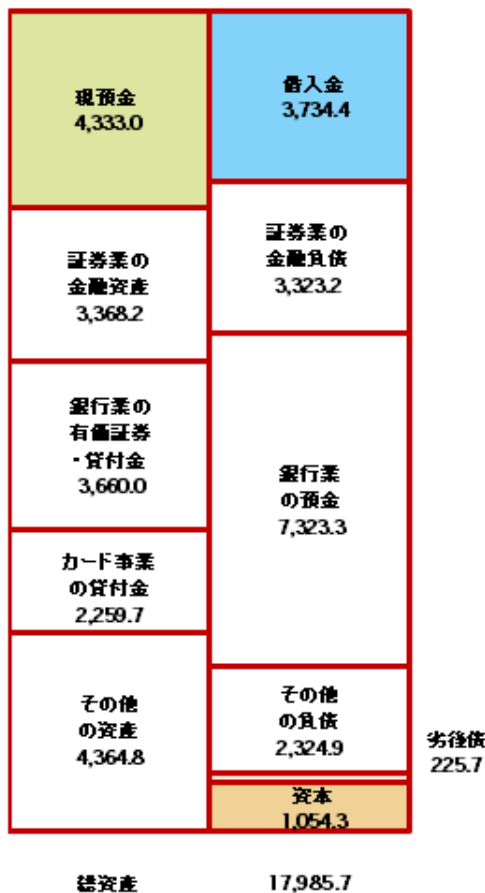
Q1/22 Non-GAAP 営業利益詳細



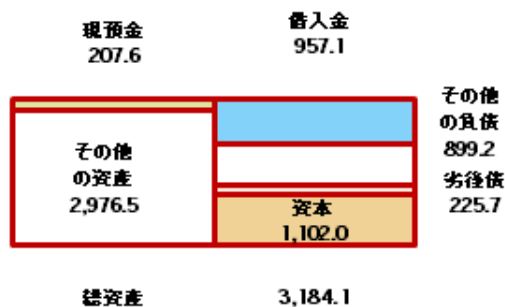
* 「インターネットその他」は主に海外EC事業、スポーツ関連事業を含む

連結・主要子会社のバランスシート概要①(2022年3月末) *1*2*3

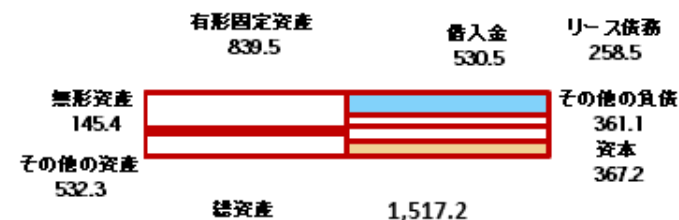
(単位：十億円)



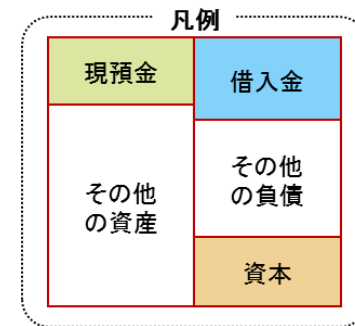
連結



楽天グループ(株)



楽天モバイル



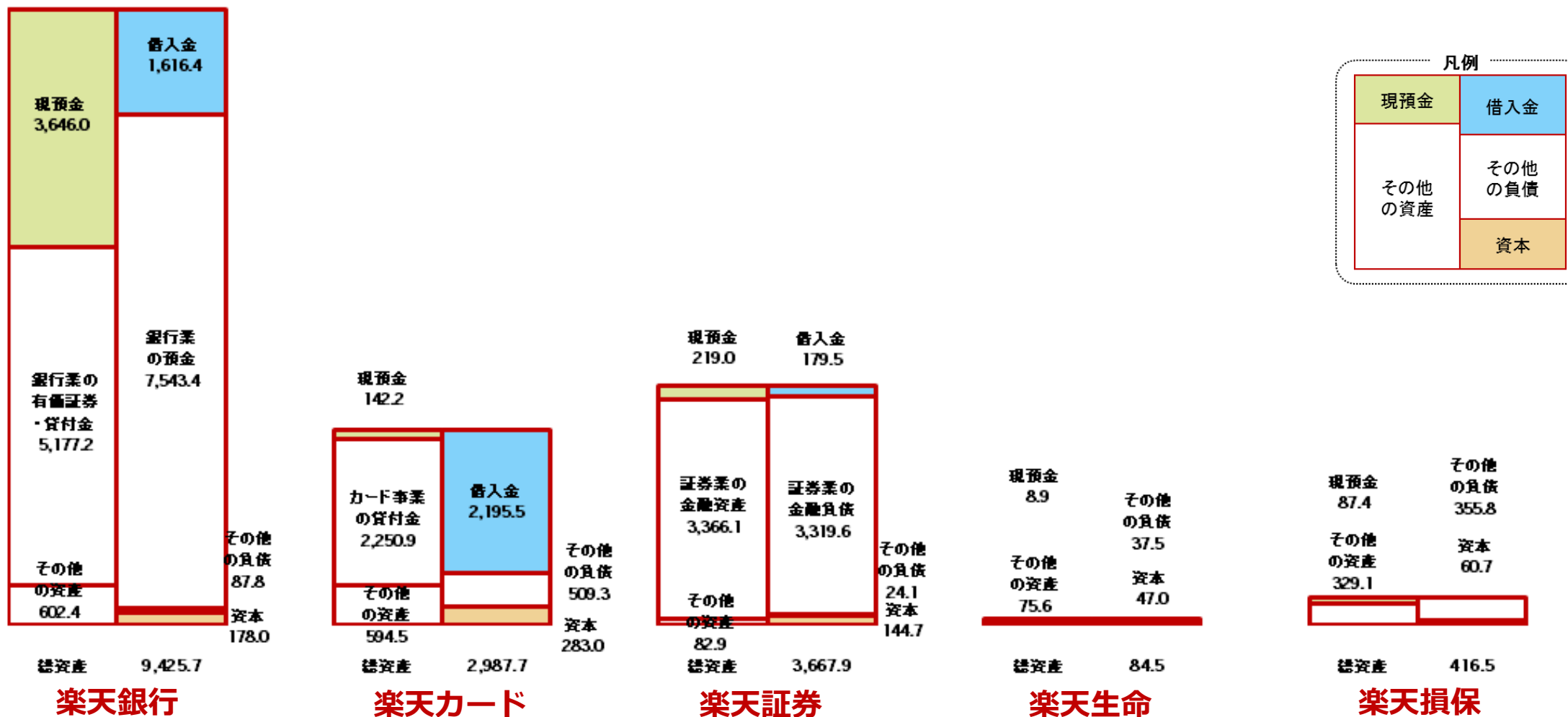
*1 楽天グループ(株)、楽天銀行、楽天カード、楽天証券、楽天生命、楽天損保、楽天モバイルはIFRSに準拠した単独決算の数値

*2 借入金 = 普通社債 + CP + 銀行借入金等

*3 単体BSは内部取引を含む

連結・主要子会社のバランスシート概要②(2022年3月末) *1*2*3

(単位：十億円)



*1 楽天グループ(株)、楽天銀行、楽天カード、楽天証券、楽天生命、楽天損保、楽天モバイルはIFRSに準拠した単独決算の数値

*2 借入金 = 普通社債 + CP + 銀行借入金等

*3 単体BSは内部取引を含む

キャッシュ・フローの状況 (2022年1月 - 3月)

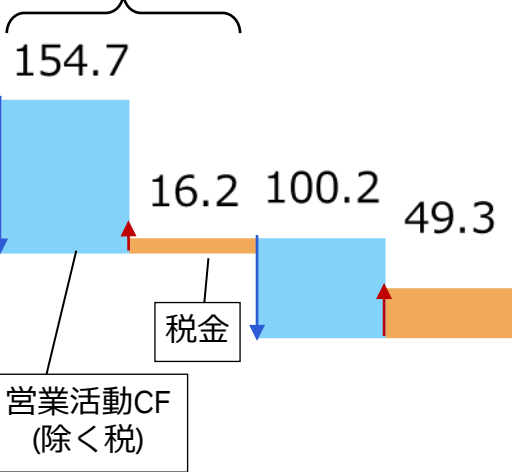
(単位：十億円)

期首現預金残高
(2021年12月末)

4,410.3

非金融事業キャッシュ・フロー

営業 投資 財務



現金及び現金同等物の減少額

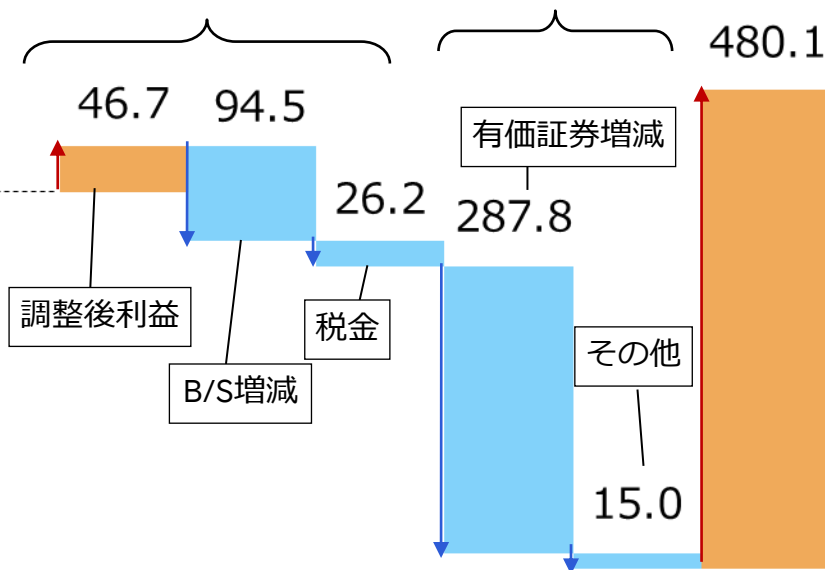
▲189.4

金融事業キャッシュ・フロー

現金及び現金同等物の増加額

+103.3

営業 投資 財務



480.1

買収/
投資等*

共通

1.5 10.3

現金及び現金同等物の
増加額

+8.8

期末現預金残高
(2022年3月末)

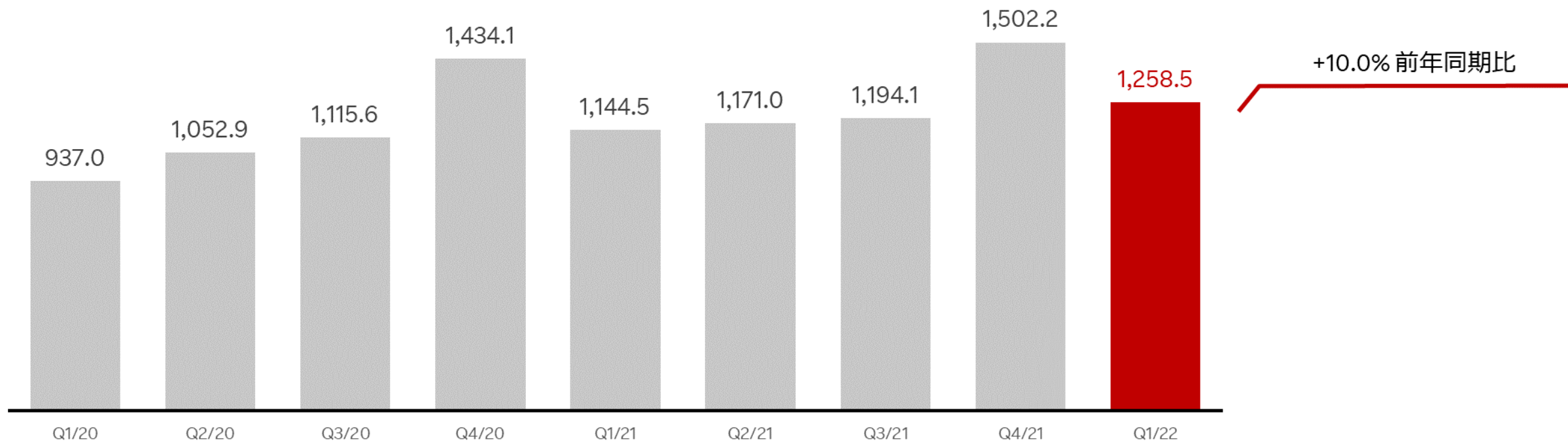
4,333.0

*買収/投資等には、「子会社の取得による支出」及び「持分法投資の取得による支出」の他、非金融における「有価証券の取得による支出」及び「有価証券の売却及び償還による収入」が含まれます。

インターネットサービスセグメント

国内EC流通総額*1*2

(単位：十億円)



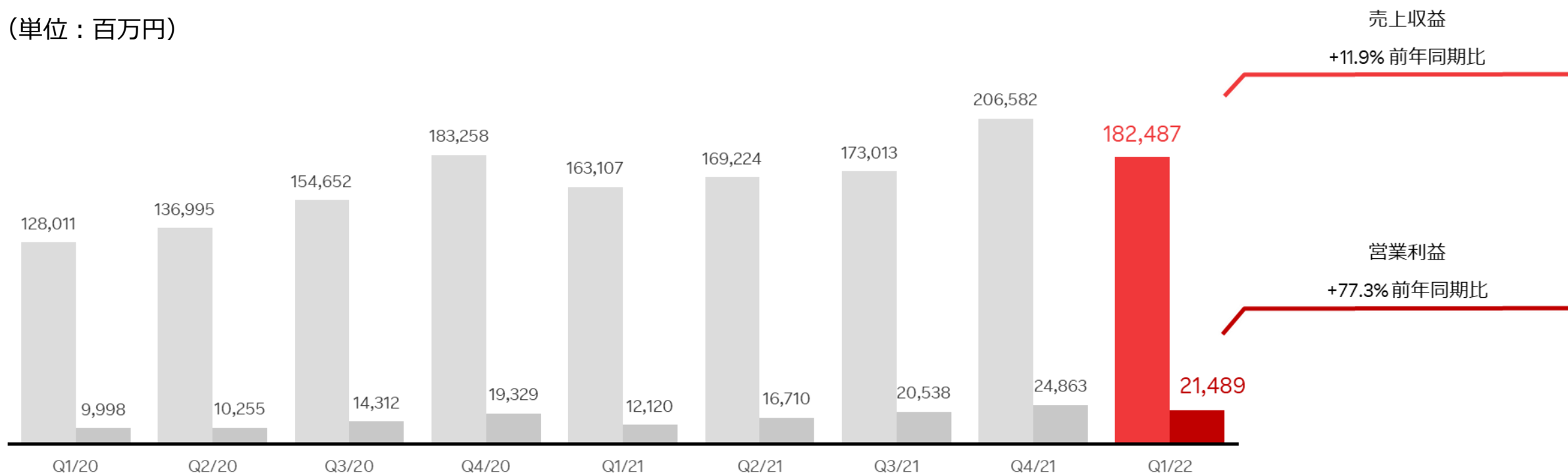
*1国内EC流通総額（一部の非課税ビジネスを除き、消費税込み）＝市場、トラベル（宿泊流通）、ボックス、ボックスネットワーク、Kobo（国内）、ゴルフ、ファッション、ドリーム、ビューティ、デリバリー、Rakuten24などの日用品直販、Car、ラクマ、Rebates、楽天西友ネットスーパー、クロスボーダートレーディング、等の流通額の合計

*2 Q4/21より、国内EC流通総額にボックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）を追加。これに伴い、遡及修正を実施。

国内EC 四半期業績推移^{*1*2}

楽天市場を中心としたEC事業の継続的な成長により、売上収益、営業利益ともに、順調に拡大

(単位：百万円)

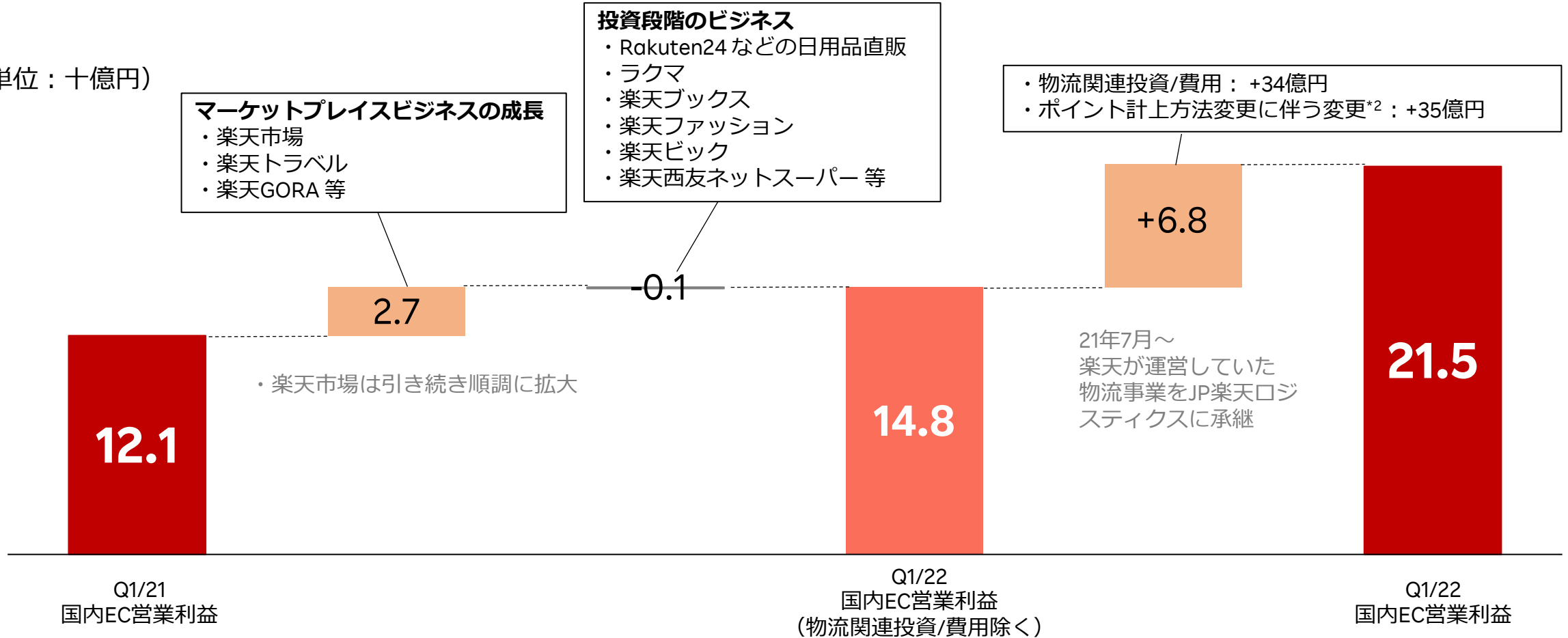


^{*1}国内EC=市場、トラベル、ボックス、ゴルフ、ファッション、ドリーム、ビューティ、Rakuten24などの日用品直販、物流、Car、ラクマ、Rebates等

^{*2}Q4/21より、ボックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo（国内）、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECセグメントに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

国内EC 営業利益詳細*1

(単位：十億円)

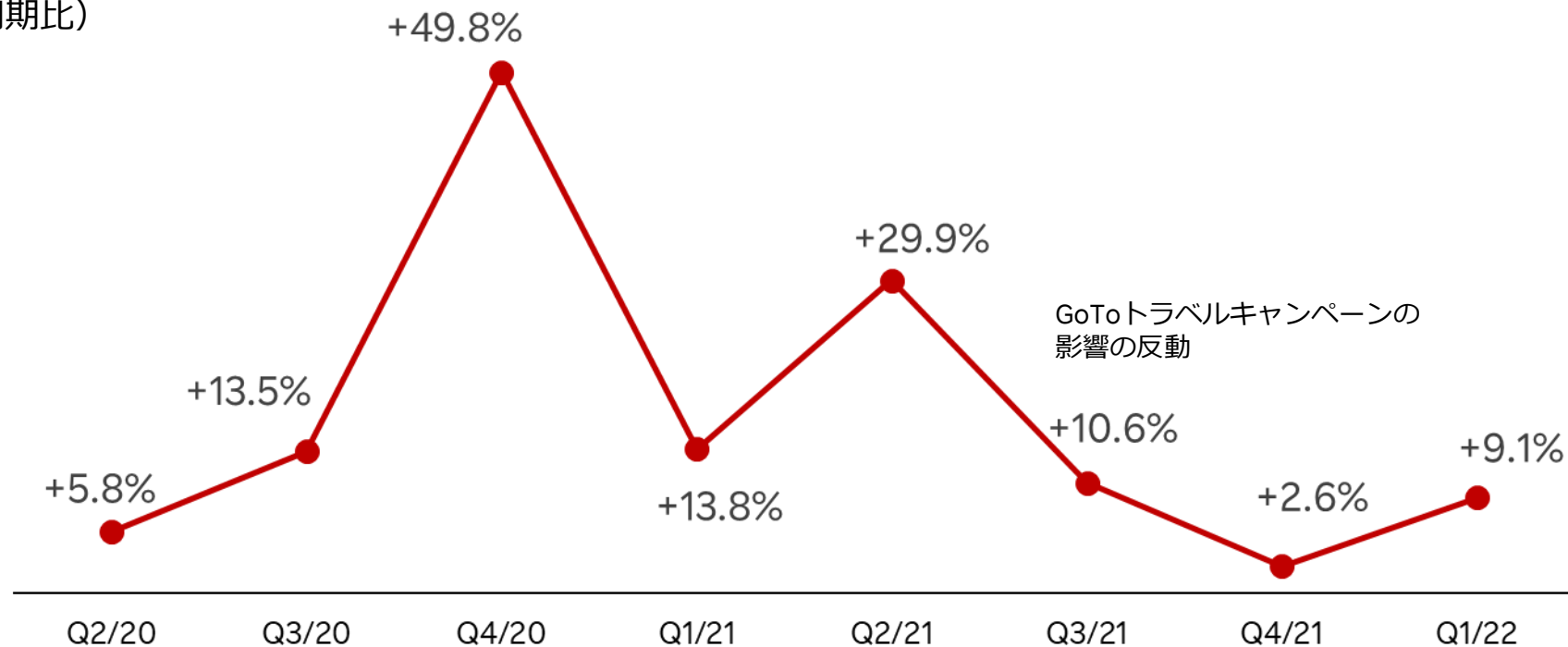


*1 Q4/21より、ブックスネットワーク、クロスボーダートレーディング、Kobo (国内)、楽天マガジンをその他セグメントから国内ECセグメントに移管。これに伴い、遡及修正を実施。

*2 グループ全体のポイントの運用管理を楽天市場で行っていたものを、楽天グループへ移管したことにより、遡及修正を実施

国内EC マーケットプレイスビジネス* 営業利益 前年同期比推移

(前年同期比)



GoToトラベルキャンペーンの影響の反動

*マーケットプレイスビジネス=市場、トラベル、ゴルフ、ドリームビジネス等

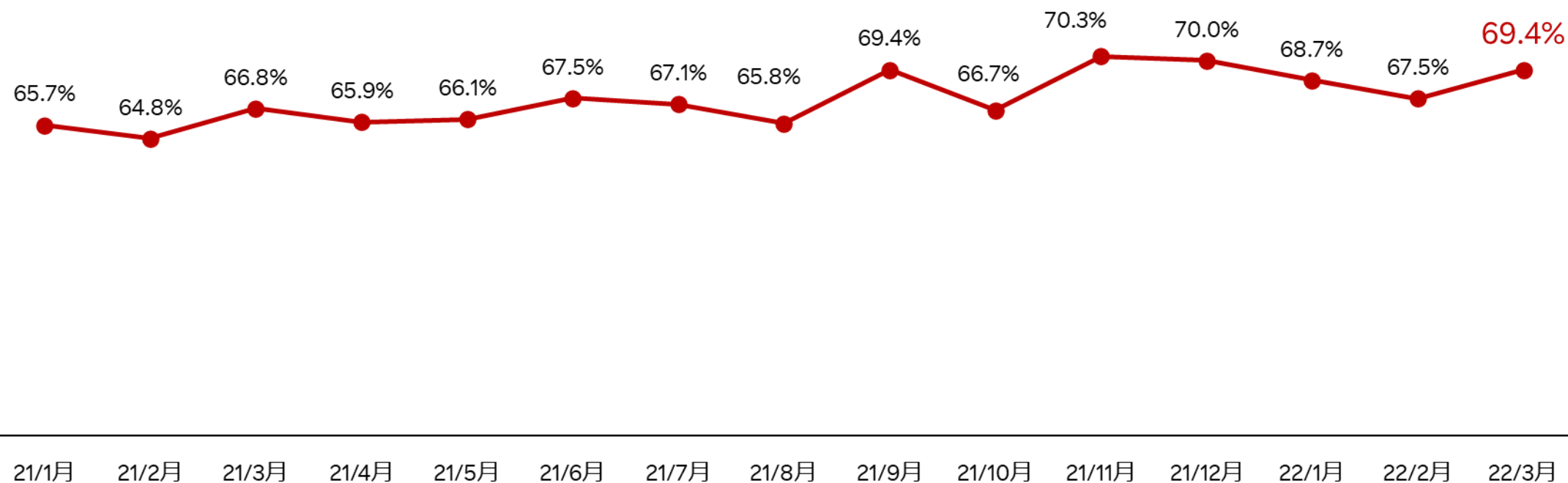
Q1/22 楽天市場モバイル流通総額比率*

81.1%

+2.8ポイント 前年同期比

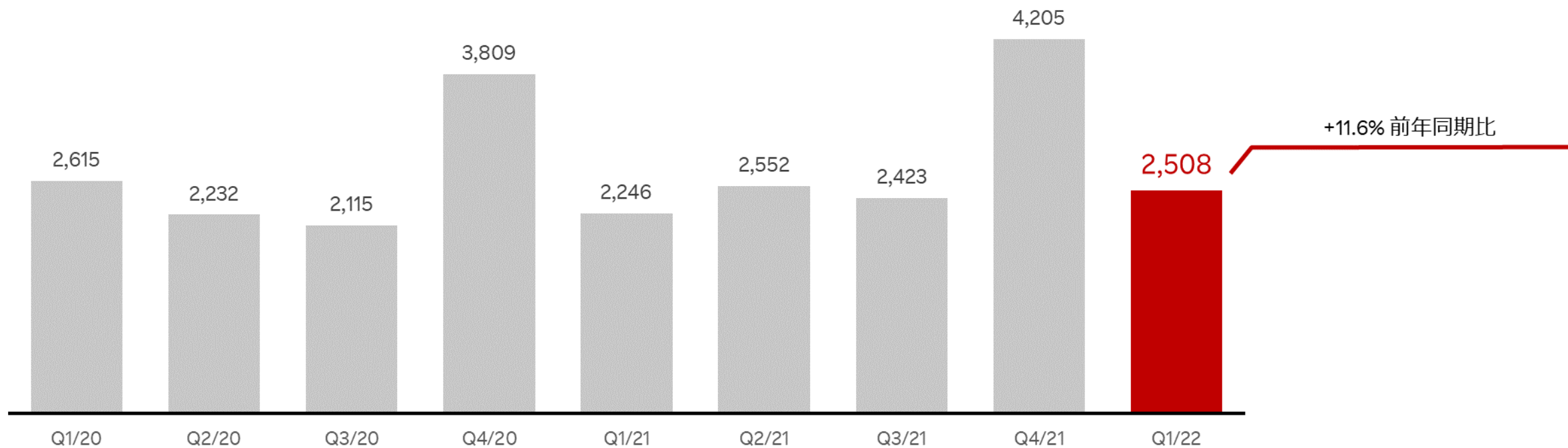
*モバイル流通総額比率=楽天市場モバイル流通総額/楽天市場流通総額合計(スマートフォン、タブレットを含む)

楽天市場流通総額における楽天カード決済比率



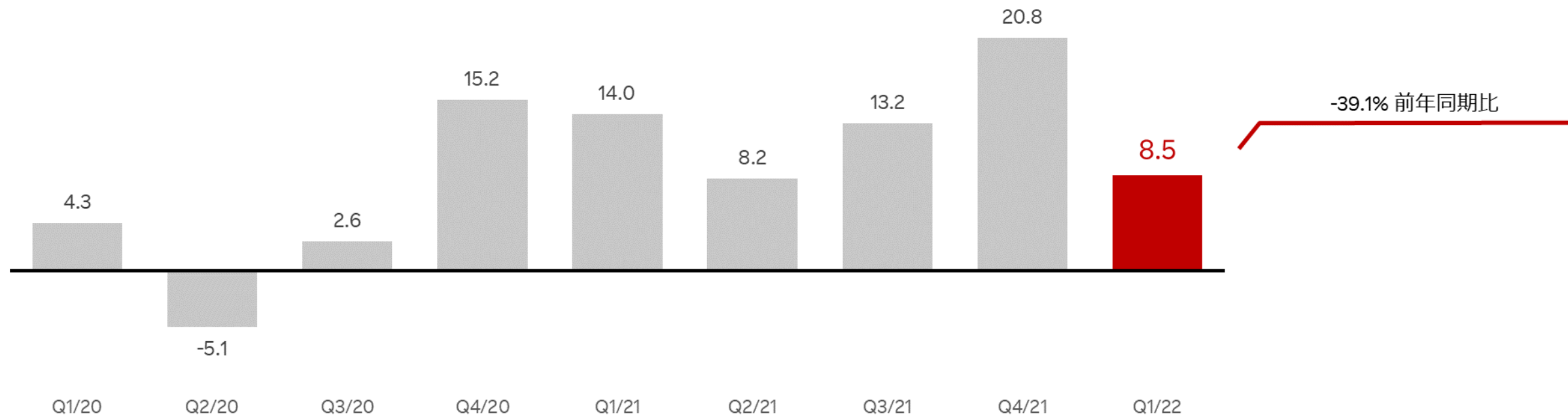
Rakuten Rewards (Ebates) 流通総額

(単位：百万米ドル)



Rakuten Rewards (Ebates) 営業利益推移^{*1*2}

(単位：百万米ドル)

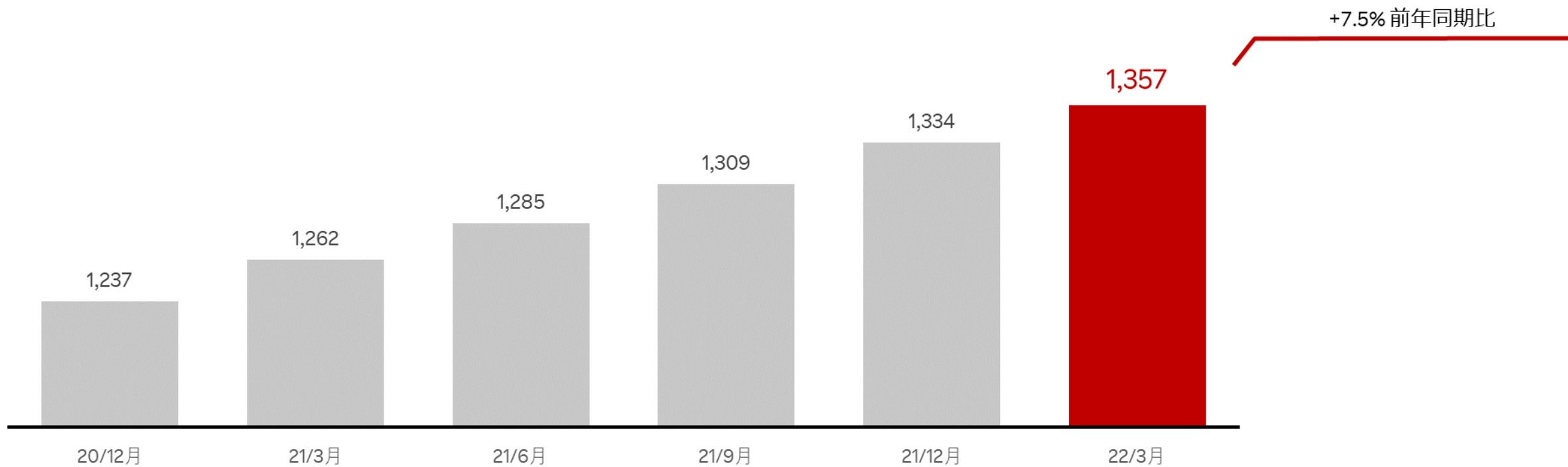


^{*1}リブランディング費用の5.2百万米ドル(Q1/20)、5.1百万米ドル(Q2/20)、6.3百万米ドル(Q3/20)及び2.5百万米ドル(Q4/20)を除く

^{*2}社内における配賦費用の付け替え等に伴い営業利益を変更しており、過去の営業利益も遡及修正済み

Viber ユニークID数^{*1*2}

(単位：百万ID)

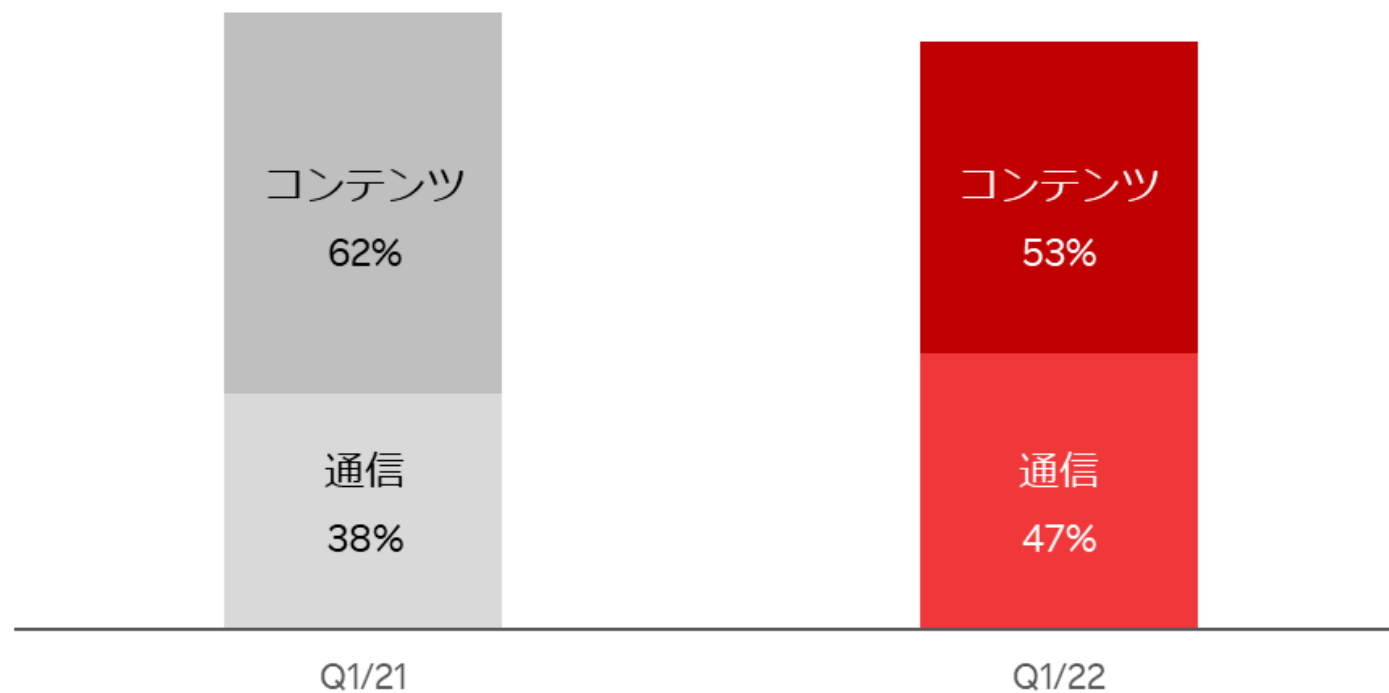


^{*1} ユニーク携帯番号登録者数 (解約者を除く)

^{*2} Q2/21に、Viber事業をモバイルセグメントからインターネットサービスセグメントに移管

Viber 売上収益^{*1*2}

売上収益
-4.8% 前年同期比

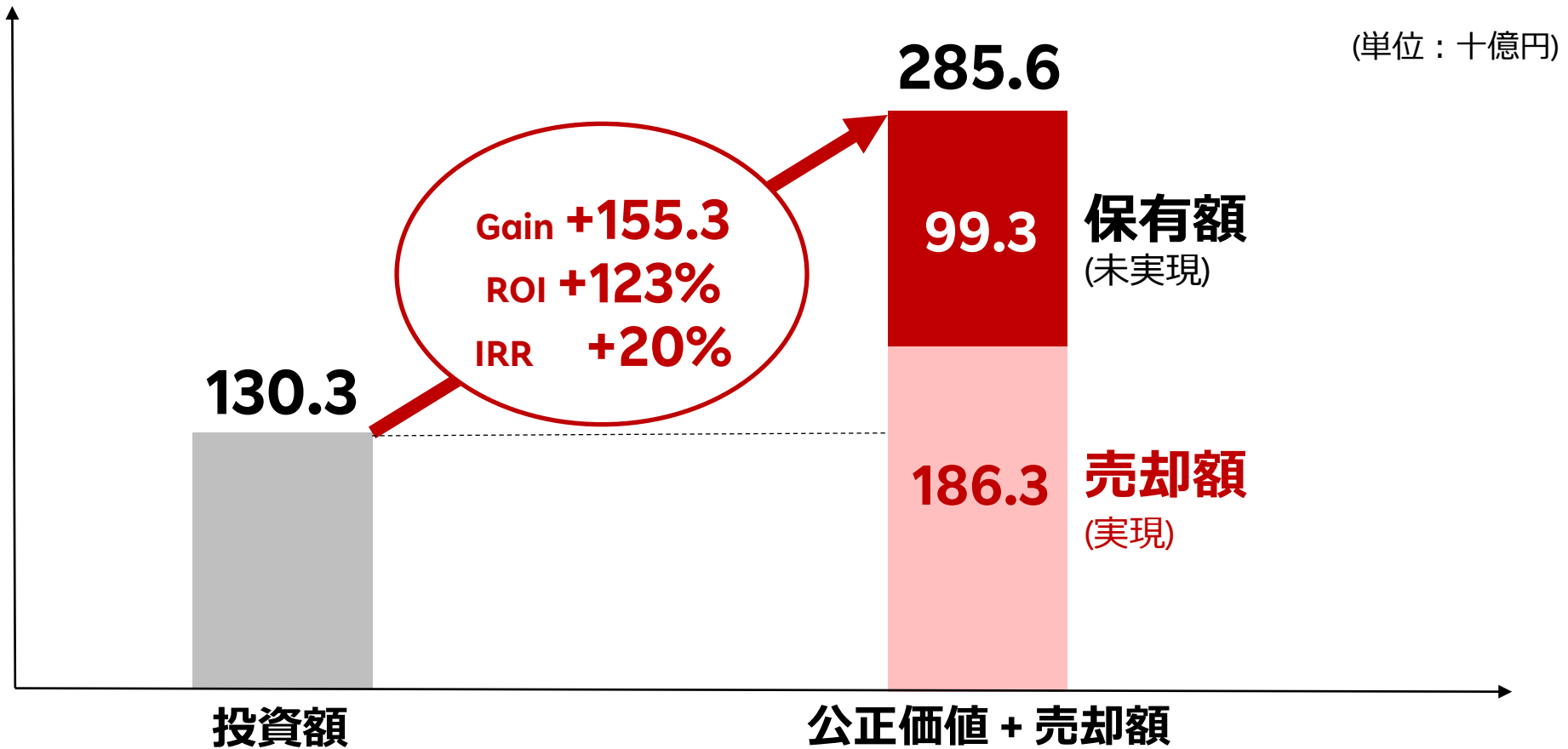


^{*1} 通信: Viber Out, Viber In, SMS / コンテンツ: サービスメッセージ、広告、ステッカー等

^{*2} Q2/21に、Viber事業をモバイルセグメントからインターネットサービスセグメントに移管

楽天キャピタル*1 投資パフォーマンス

楽天キャピタル 投資パフォーマンス (2022年3月末時点)*2



*1 楽天グループ 投資事業 (楽天キャピタル) (2012-2022Q1)

*2 Lyft・楽天メディカル等、楽天キャピタル以外のマイノリティー投資を除く

マイノリティー投資ポートフォリオ

保有

売却済*1

楽天キャピタル以外*2

投資件数*3 :

37

34

2

インターネット



SHOPBACK



≡ VERISHOP

dataX

ライドシェアリング



cabify

フィンテック
TORANOTEC

モバイル/AI



ヘルスケア

airweave



Genesis Healthcare

その他



» VISIONAL



Rakuten Medical
(関連会社)

*1 2015年以降売却分、件数は一部売却を除く

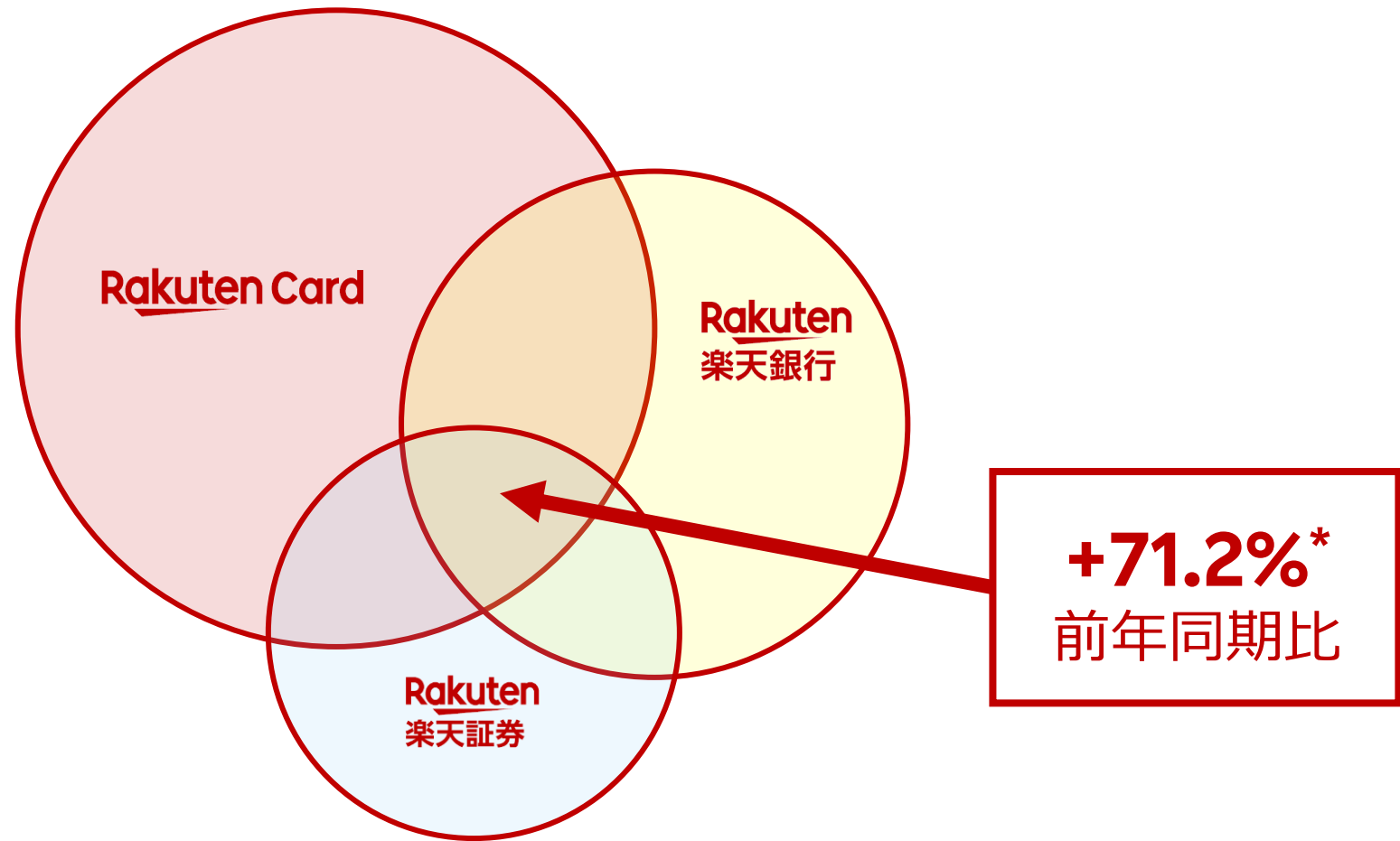
*2 Lyftと楽天メディカルは、楽天キャピタルから他ビジネスへ移管

*3 投資件数はQ1/22時点の楽天キャピタルの投資に限定

フィンテックセグメント

フィンテック各社のクロスユース例

「楽天カード」×「楽天銀行」×「楽天証券」
ユーザー



* 2022年3月時点

Q1/22 フィンテックセグメント業績サマリー*1*2*3

(単位：十億円)

Q1/22	売上収益	前年同期比	営業利益	前年同期比
楽天カード	72.2	+8.3%	11.1	+0.9%
楽天銀行	26.1	+1.4%	7.5	+2.8%
保険事業	24.3	-4.1%	2.2	+12.7%
楽天ペイメント	10.6	+20.7%	-0.8	+0.4
その他	1.6	+16.8%	-0.9	-0.1
フィンテック 合計 (除く楽天証券)	134.7	+5.4%	19.1	+4.8%
楽天証券	23.4	-1.5%	3.6	-42.3%
フィンテック 合計	158.1	+4.3%	22.8	-7.3%

*1 保険事業は、生命保険、損害保険、ペット保険、保険代理店を含む。

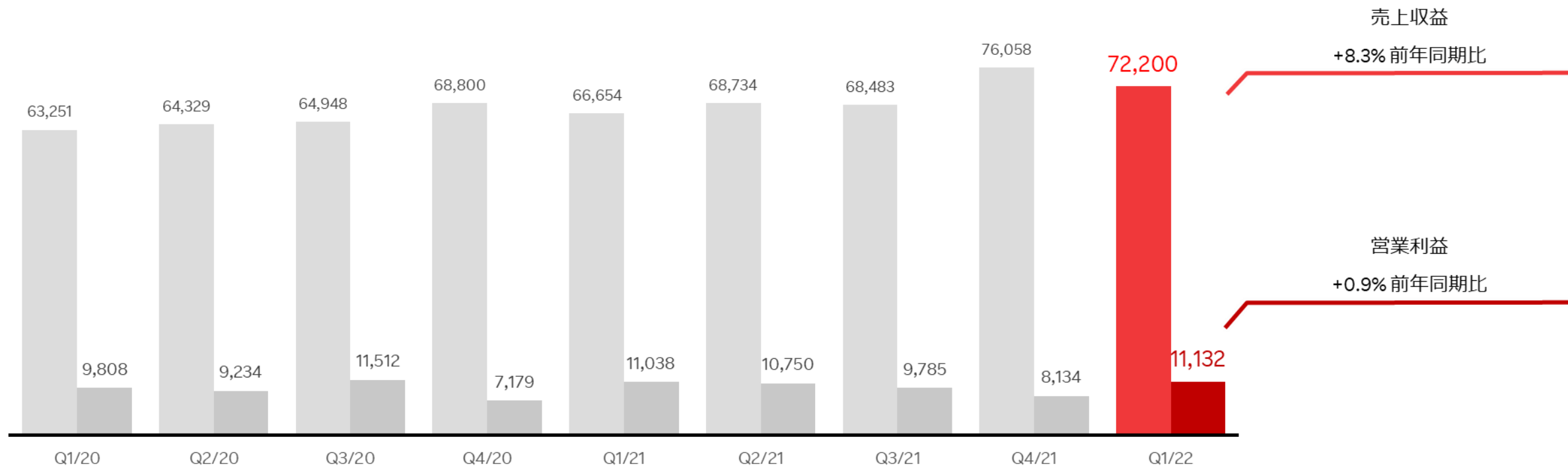
*2 楽天ペイメント=楽天ペイ、楽天Edy、ポイントパートナー等

*3 楽天銀行：Q2/20に台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）を連結子会社化。上記PLには含まない。

楽天カード 四半期業績推移

会員数、稼働率、客単価がそれぞれ伸長した結果、ショッピング取扱高が増加
加盟店手数料収益拡大し、売上高の成長をけん引

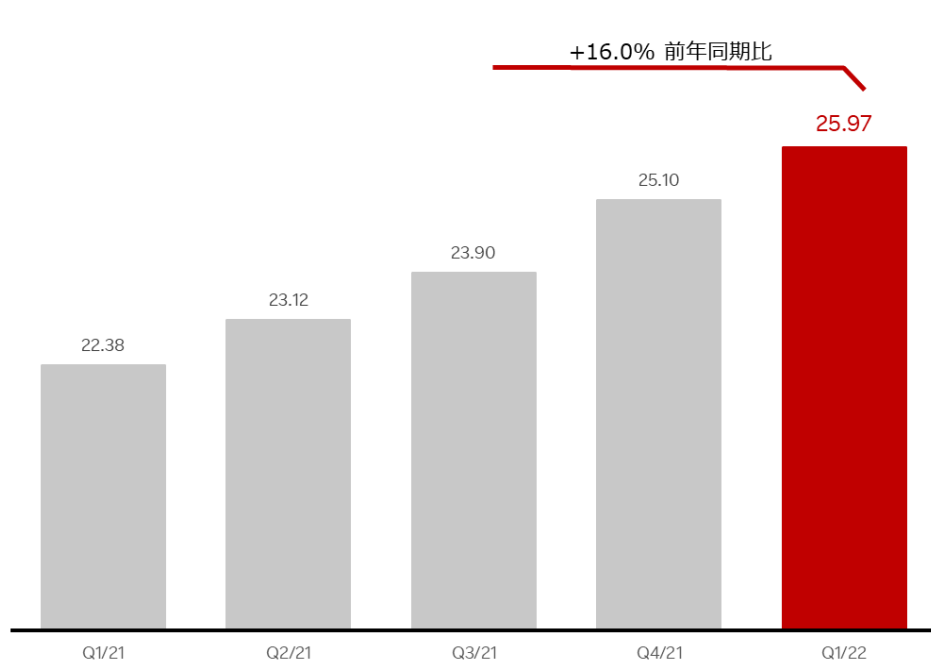
(単位：百万円)



楽天カード 経営指標 (1)

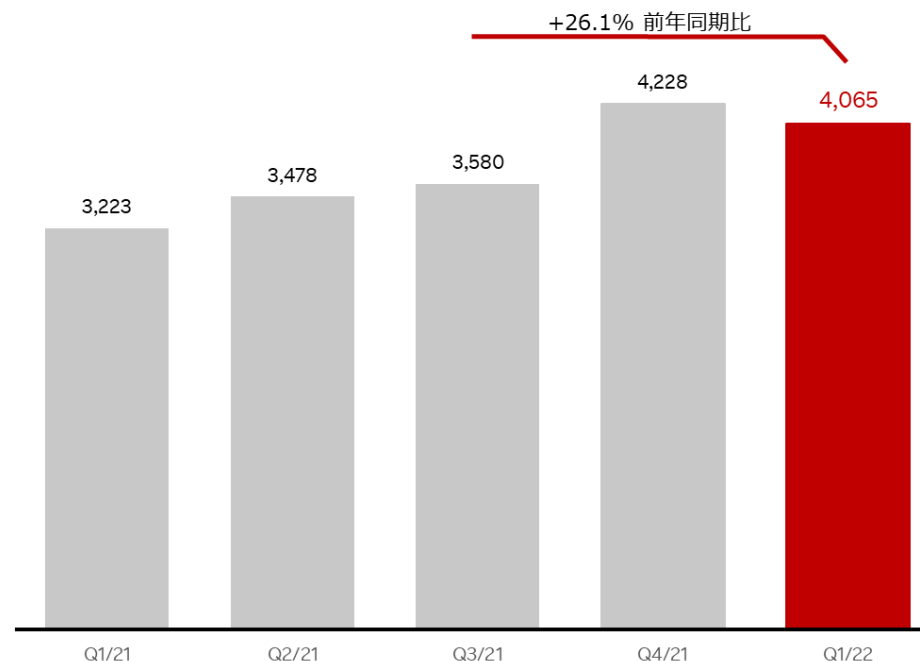
カード発行枚数*1

(単位：百万枚)



ショッピング取扱高*2

(単位：十億円)



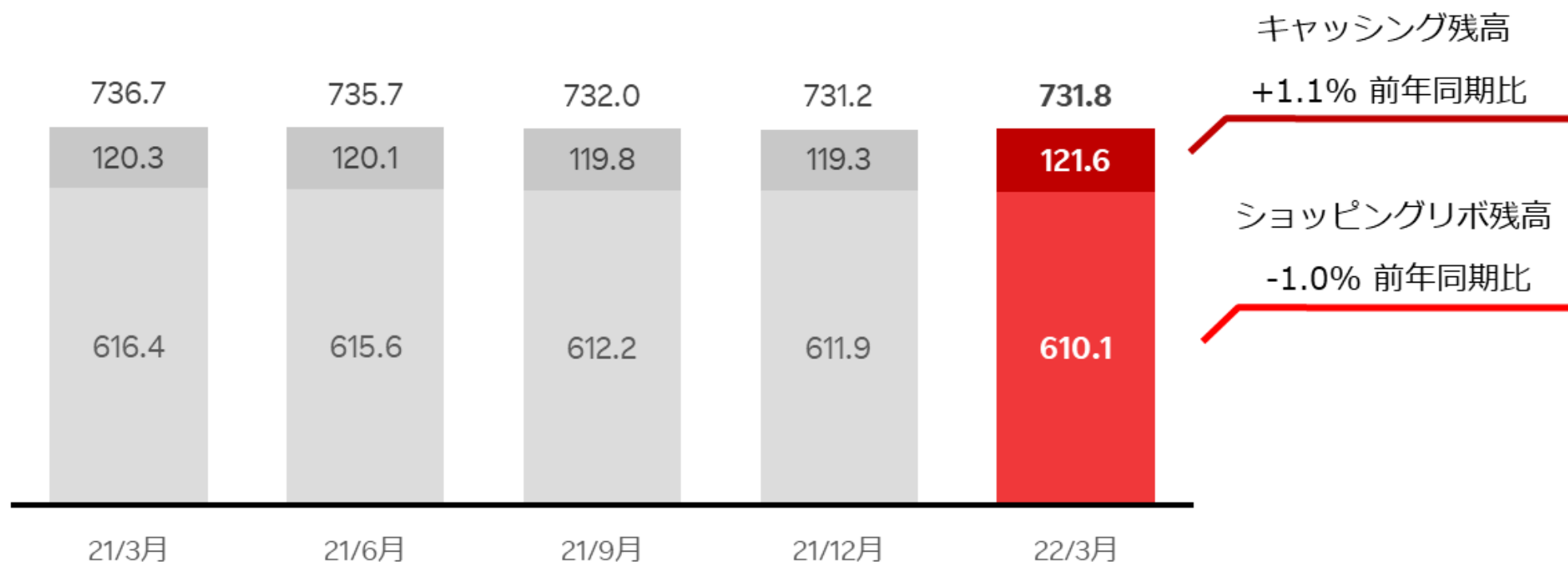
*12021年6月より本格開始した2枚目発行を含む。

*2管理会計ベース。補足データ資料とは異なる定義。

楽天カード 経営指標* (2)

ショッピングリボ残高及びキャッシング残高

(単位：十億円)



*管理会計ベース。補足データ資料とは異なる定義。リボ残高は元本ベース。

楽天カード 貸倒関連比率

(単位：百万円)

	Q3/20	Q4/20	Q1/21	Q2/21	Q3/21	Q4/21	Q1/22	前年同期比
貸倒関連費用	8,950	11,789	8,383	9,046	9,110	12,135	7,644	-8.8%
貸倒関連費用比率 ^{*1}	1.63%	2.03%	1.40%	1.53%	1.52%	1.88%	1.14%	-
	Q3/20	Q4/20	Q1/21	Q2/21	Q3/21	Q4/21	Q1/22	前年同期比
楽天カード	1,839,869	2,097,002	2,010,882	2,052,112	2,093,338	2,449,854	2,321,916	+15.5%
ステージ1（正常）	1,750,887	2,008,991	1,919,540	1,957,075	1,994,727	2,349,481	2,219,197	+15.6%
ステージ2（未収1～2ヶ月）	11,633	12,414	13,554	13,333	14,102	14,512	14,443	+6.6%
ステージ3（未収3ヶ月以上／貸出条件緩和債権）	77,349	75,597	77,788	81,703	84,509	85,860	88,276	+13.5%
楽天銀行保証	359,857	347,727	337,924	325,777	315,559	304,827	296,879	-12.1%
ステージ1（正常／信用保証債務残高 ^{*2} ）	323,023	312,551	303,559	291,724	281,938	272,555	265,169	-12.6%
ステージ2（遅延30日以上／信用保証債務残高 ^{*2} ）	127	114	49	76	100	57	92	+86.9%
ステージ3（求償債権）	36,707	35,062	34,315	33,977	33,522	32,215	31,618	-7.9%
その他	934	902	866	825	803	743	712	-17.8%
債権残高・保証残高 合計	2,200,660	2,445,632	2,349,672	2,378,714	2,409,699	2,755,423	2,619,507	+11.5%
引当金残高 ^{*3}	96,898	94,890	94,047	94,470	95,185	95,560	94,228	+0.2%
貸倒償却額 ^{*4}	11,561	13,801	9,229	8,625	8,399	11,761	8,977	-2.7%

^{*1}貸倒関連費用比率 = 貸倒関連費用 ÷ 債権残高・保証残高合計の期首期末平均 × 4

^{*2}楽天銀行における楽天銀行スーパーローン残高のうち、楽天カードが信用保証する残高

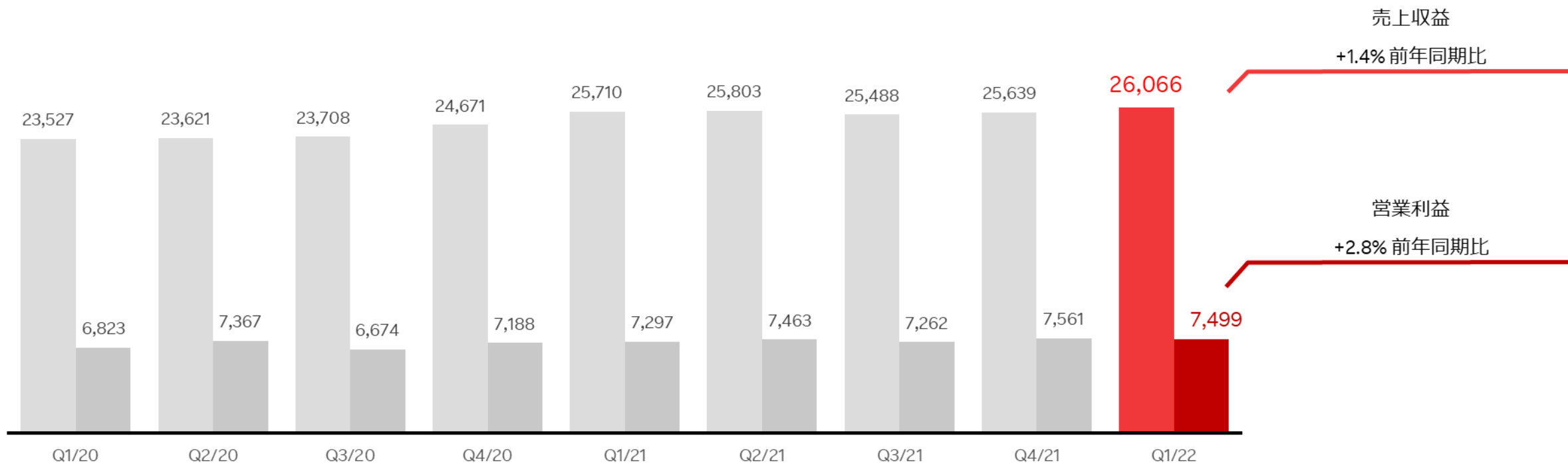
^{*3}債務保証損失引当額を含む

^{*4}貸倒償却には債権譲渡損を含む

楽天銀行 四半期業績推移*

新規口座数の拡大に伴う口座振替手数料・ATM受取手数料の増加や、有価証券利息配当金の増加等が寄与し、増収増益

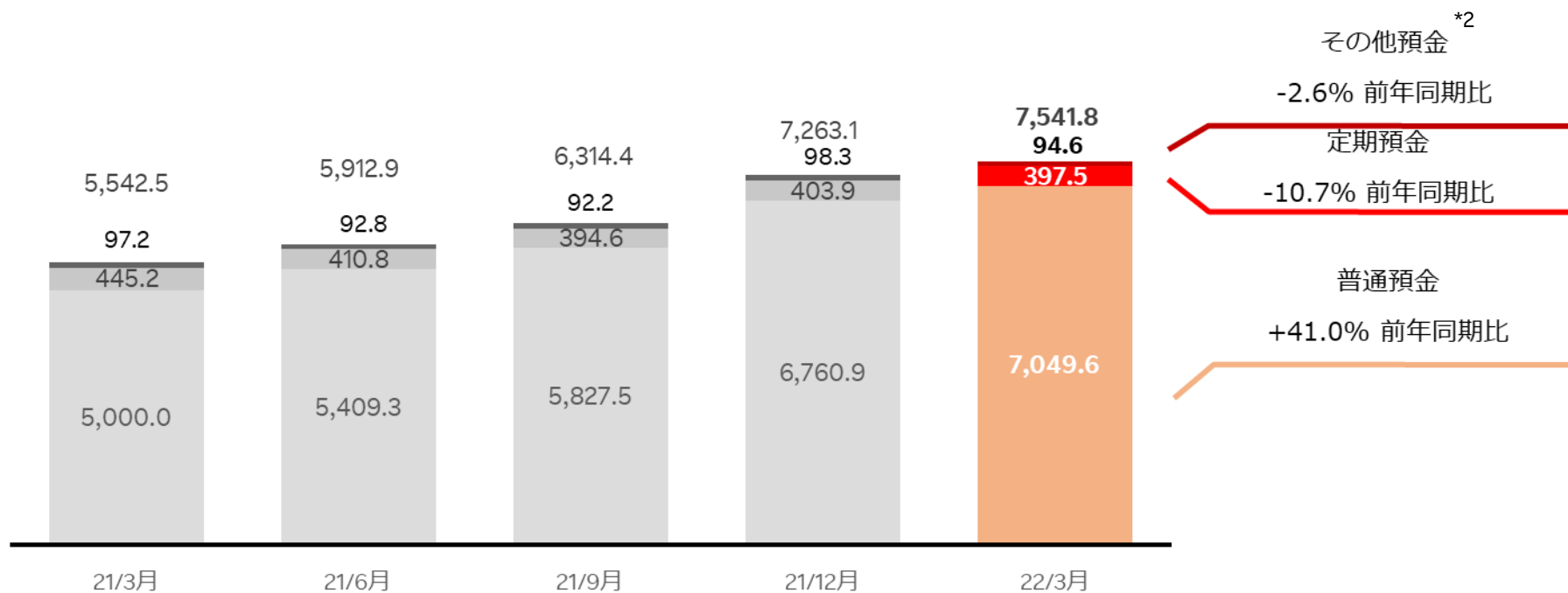
(単位：百万円)



* Q2/20に台湾における現地合併会社（楽天国際商業銀行股份有限公司）を連結子会社化。上記PLには含まない。

楽天銀行 預金残高推移*1

(単位：十億円)

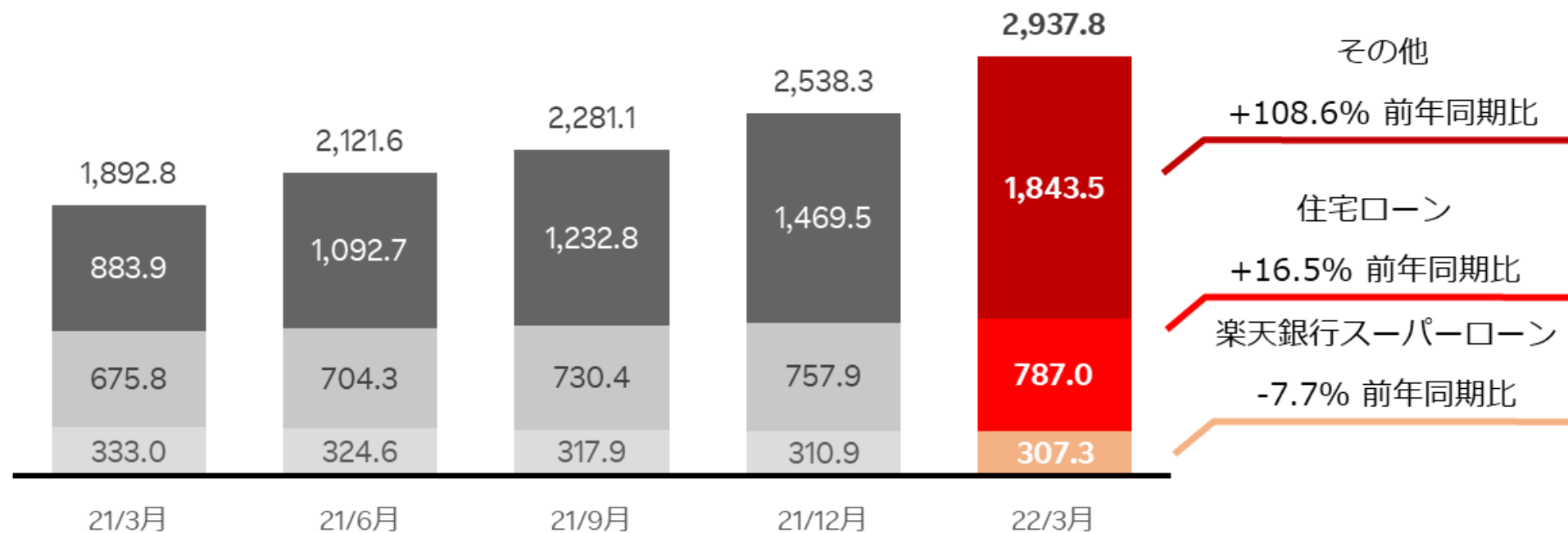


*1 預金残高はIFRSベース（定期預金は、特約定期預金のデリバティブを含む）。楽天銀行連結ベース

*2 その他預金には別段預金その他、外貨預金等を含む

楽天銀行 貸出金残高推移

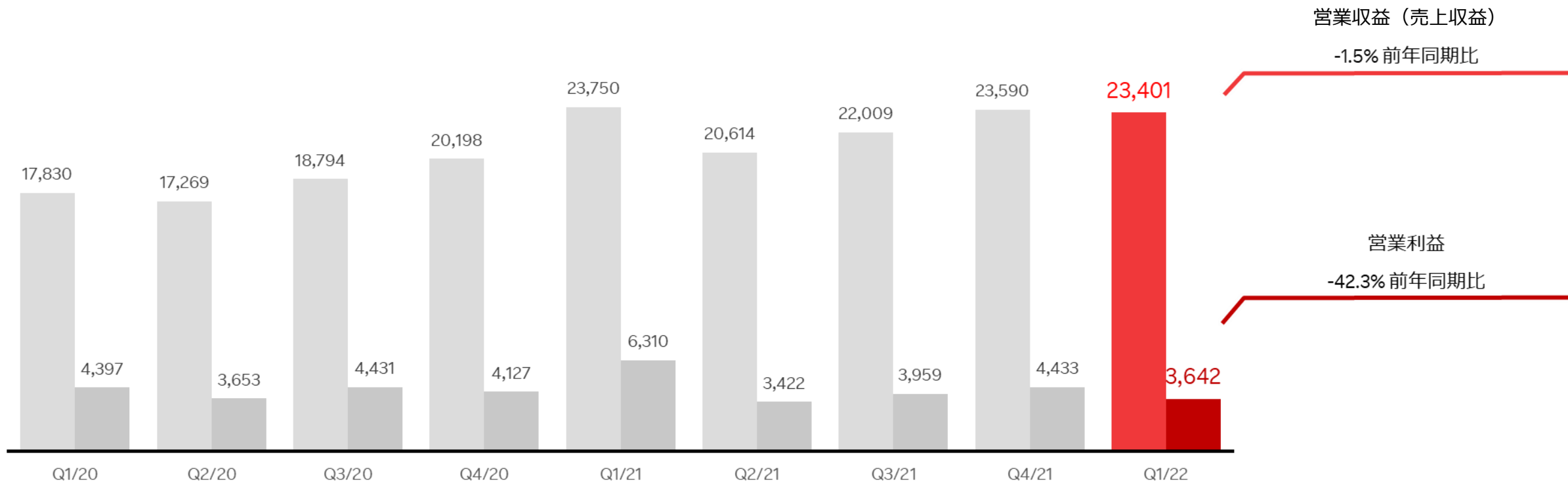
(単位：十億円)



楽天証券 四半期業績推移

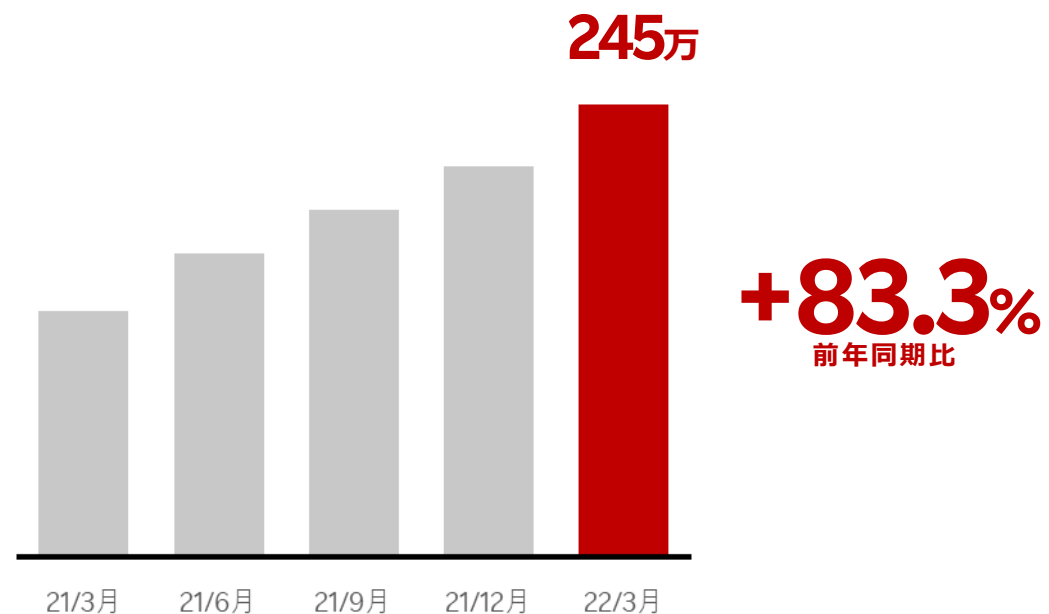
国内株式取扱高は過去最高を更新し、顧客のさらなる定着が進んだ一方、委託手数料の減少等に影響を受けたため、減収減益

(単位：百万円)

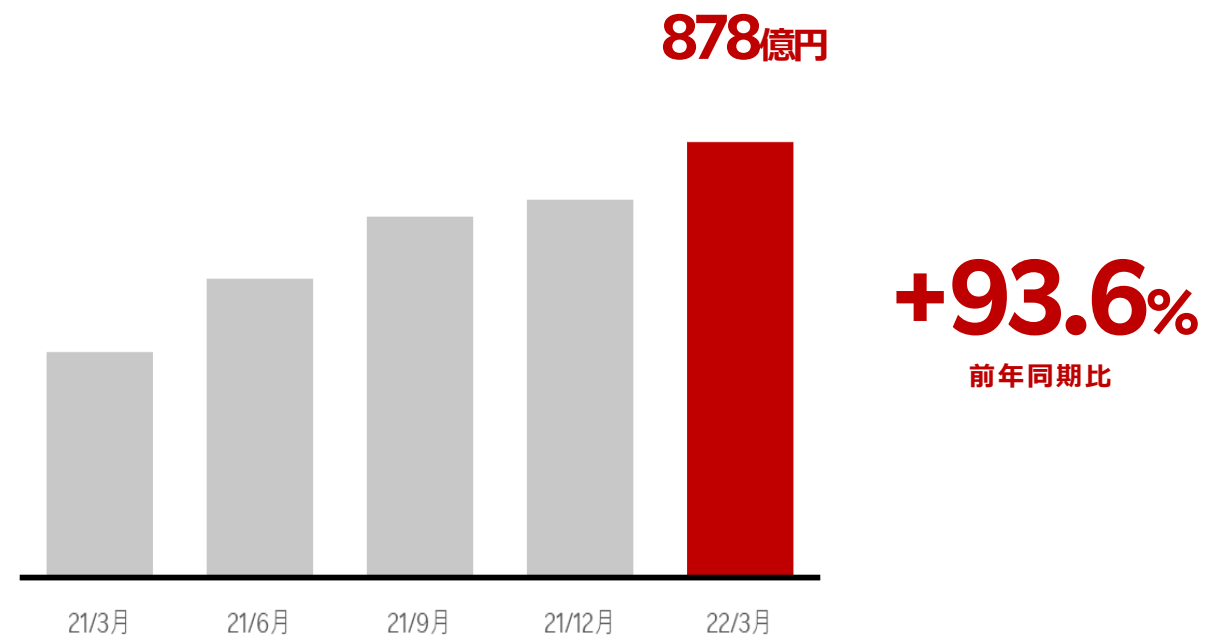


楽天証券 投信積み立て設定口座数および設定金額の推移

投信積み立て設定口座数



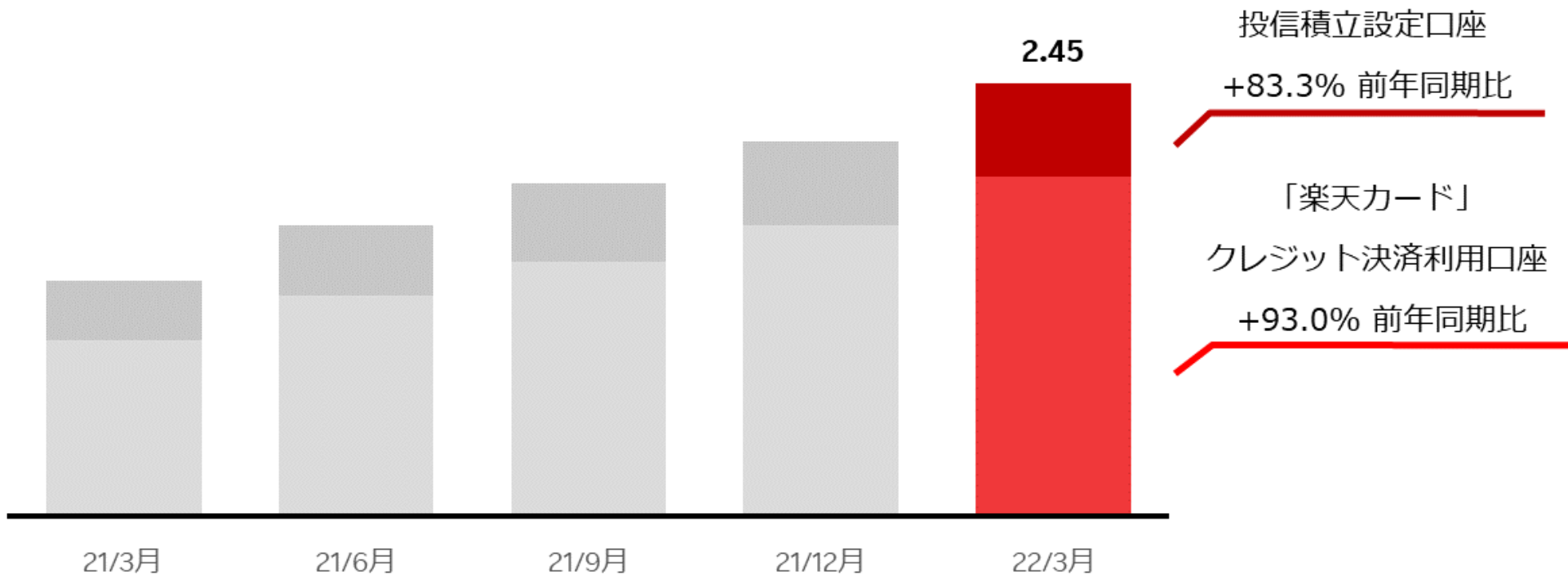
投信積み立て設定金額



楽天証券 投信積立口座数の増加

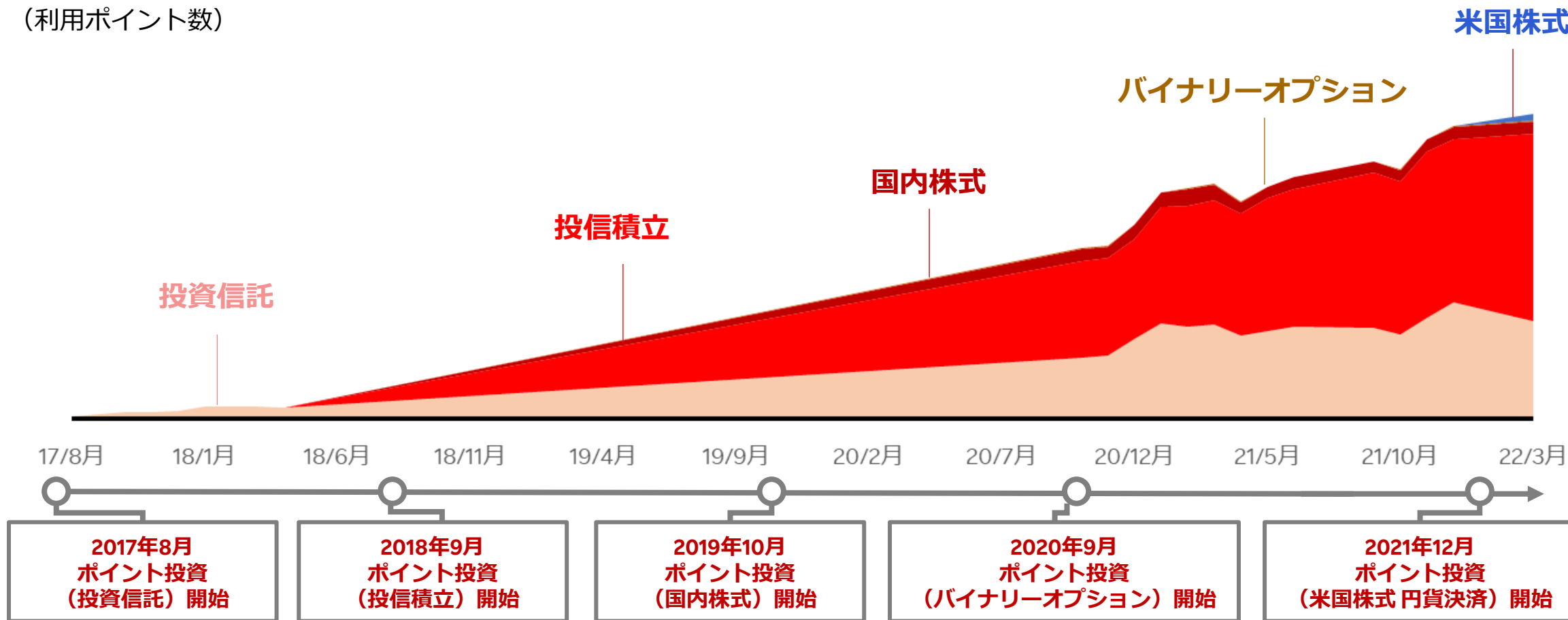
つみたてNISAや、投信積立の「楽天カード」クレジット決済、ポイント投資等の施策により、投信積立設定口座数および「楽天カード」クレジット決済利用口座が増加

(単位：百万口座)



楽天証券 ポイント投資

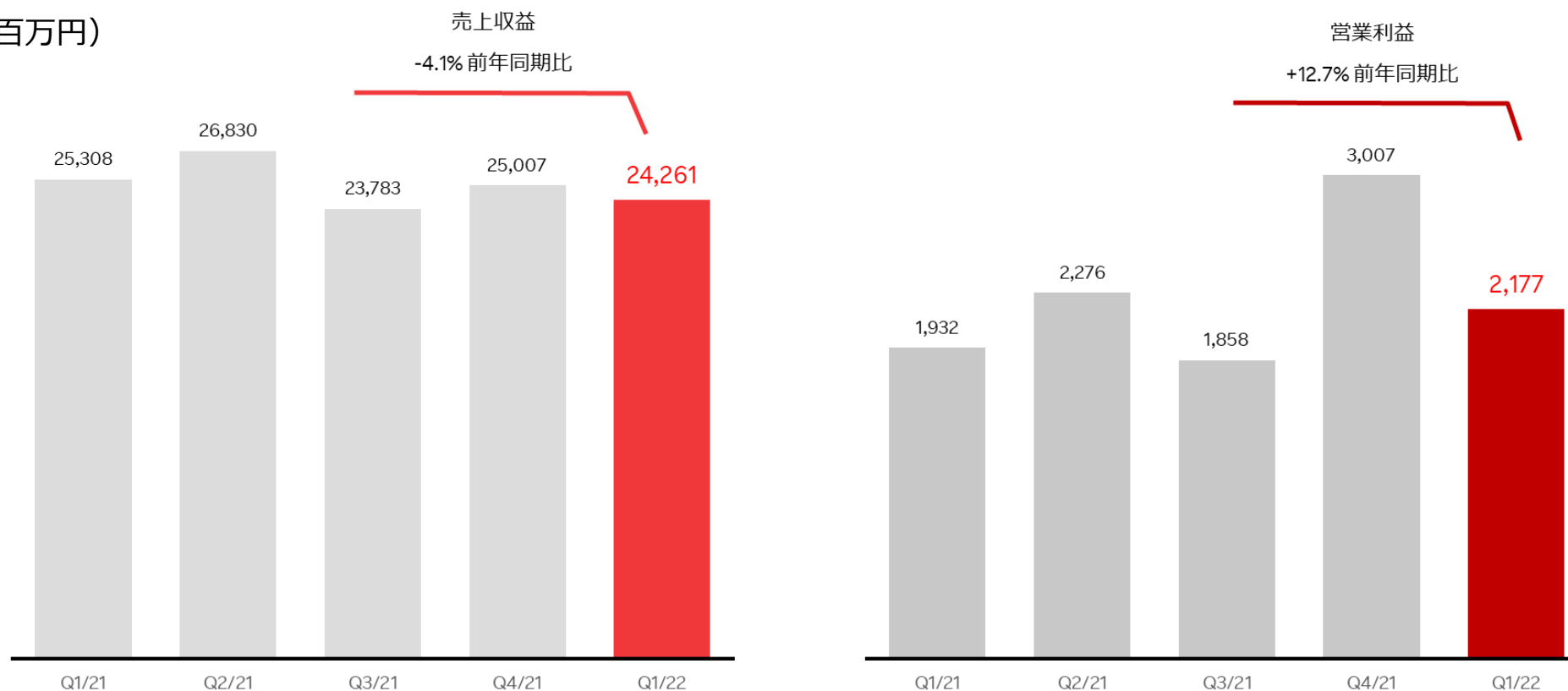
(利用ポイント数)



保険事業 業績推移*

売上収益は、損害保険での引受基準適正化に伴う損害率改善により再保険取引を縮小したため減少
営業利益は保険引受利益改善やコスト削減により増益を達成

(単位：百万円)



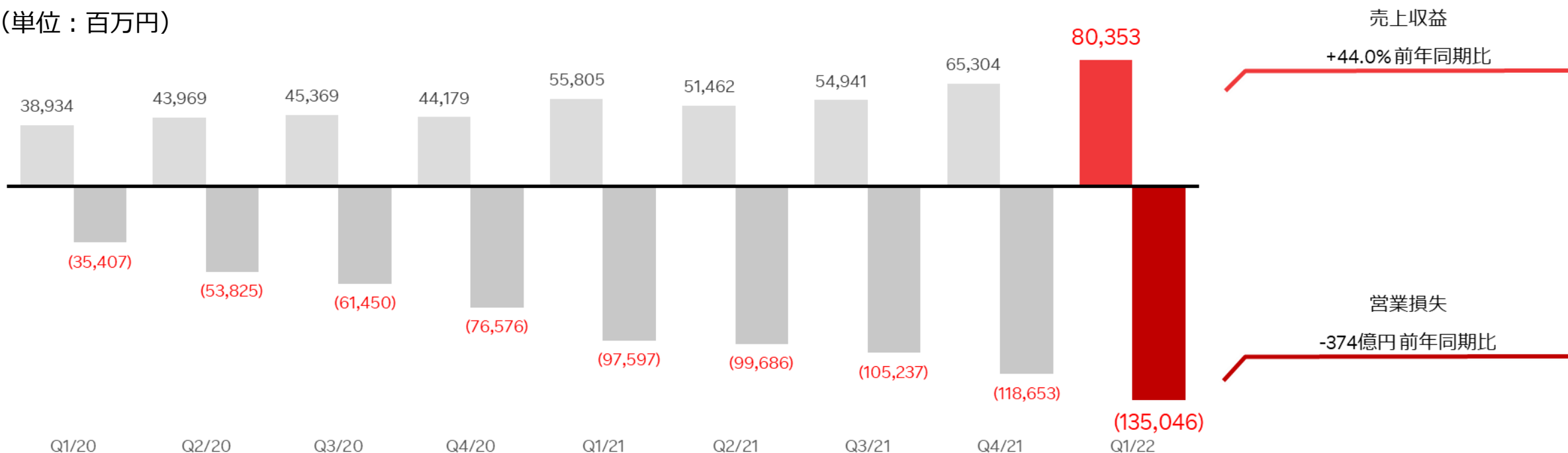
* 保険事業は生命保険、損害保険、ペット保険、保険代理店を含む。

モバイルセグメント

モバイルセグメント*1*2 四半期業績推移

課金対象のMNOユーザーの増加、デバイス売上の増加等が寄与し、前四半期比で増収。
楽天回線エリアの積極的な拡大に伴い、減価償却費やネットワーク関連費用が増加。

(単位：百万円)



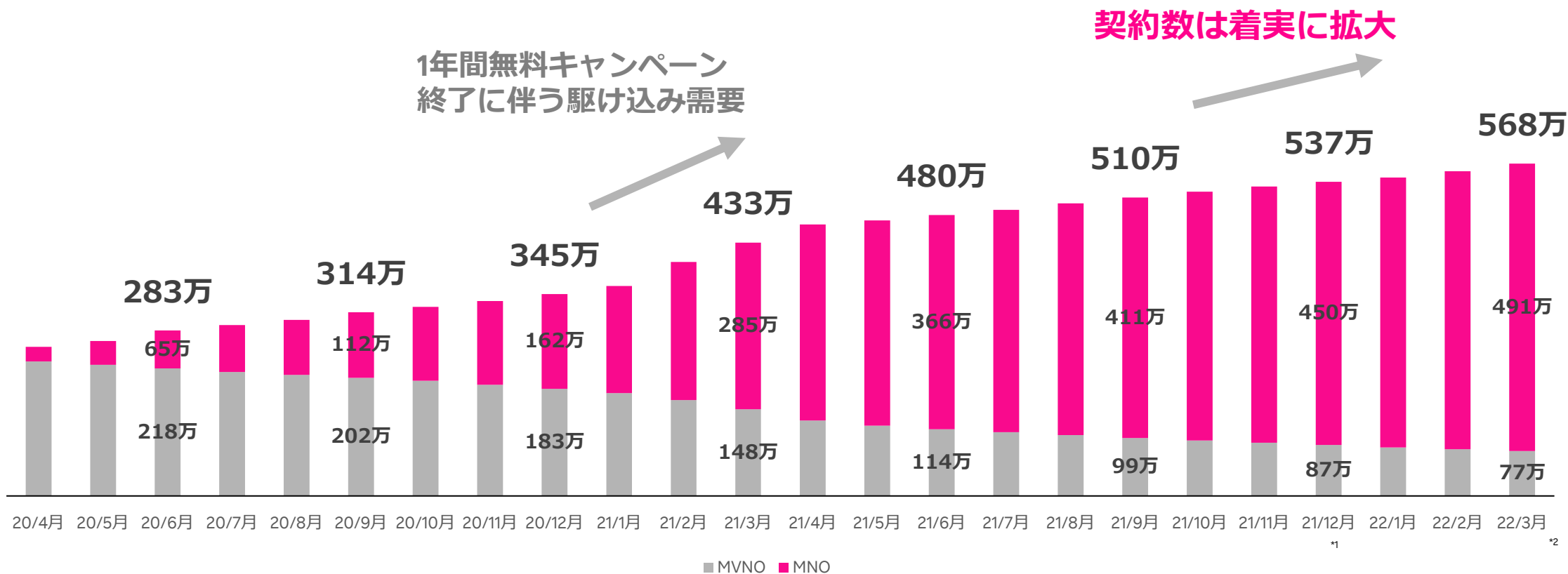
*1モバイルセグメントは楽天コミュニケーションズ、MNO事業、MVNE/O事業、エナジー事業、コンテンツ事業等により構成されます。

*2 Q2/21よりRakuten Kobo、Rakuten Viki、Rakuten Viber等の事業はインターネットサービスセグメントへ移動。

顧客基盤は着実に拡大

MNO契約数 **5百万**突破
(2022年4月)

MNO及びMVNO契約数



*1 21/12月数値は確報値

*2 22/3月数値は速報値

楽天モバイル 貸借対照表

(単位：百万円)

IFRS貸借対照表, Balance Sheet (IFRS)	Q1/20	Q2/20	Q3/20	Q4/20	Q1/21	Q2/21	Q3/21	Q4/21	Q1/22
資産, Assets									
有形固定資産, Fixed assets	229,251	268,954	339,757	415,270	485,176	569,409	660,352	763,602	839,526
無形資産, Intangible assets	36,669	44,096	52,781	58,024	60,305	110,118	124,744	138,508	145,387
その他の資産, Other assets	118,401	155,852	184,374	187,648	179,718	225,300	271,182	498,430	532,314
資産合計, Total Assets	384,321	468,902	576,911	660,942	725,198	904,827	1,056,278	1,400,540	1,517,227
負債及び資本, Liabilities and net assets									
借入金, Borrowings *	19,018	99,330	209,952	228,333	328,430	387,563	487,688	681,056	530,501
<small>* 主にリースファイナンス及び親会社からの借り入れによる負債が計上されています * Borrowings are liabilities from lease financing and Loans from Rakuten Group, Inc.</small>									
リース負債, Lease liabilities *	70,780	79,875	91,667	111,473	127,282	154,224	195,267	237,109	258,474
<small>* 主にIFRS16による賃借料等の将来に渡る見込債務が計上されています * Lease liabilities are capitalized costs under IFRS16 such as rent expenses</small>									
その他の負債, Other liabilities	82,615	110,104	131,199	140,479	165,432	198,179	220,371	373,000	361,097
負債合計, Total liabilities	172,413	289,309	432,817	480,285	621,144	739,966	903,326	1,291,165	1,150,072
資本合計, Total net assets	211,908	179,594	144,094	180,657	104,054	164,861	152,952	109,375	367,155
負債及び資本合計, Total liabilities and net assets	384,321	468,902	576,911	660,942	725,198	904,827	1,056,278	1,400,540	1,517,227

電波発射済基地局数：42,769 契約締結済基地局数：12,355 (2022年3月末時点)

楽天モバイル 実店舗ネットワーク

2022年4月時点 店舗数：1,125（うち「楽天モバイル 郵便局店」が285）

九州・沖縄エリア

福岡県： 48店舗
佐賀県： 6店舗
長崎県： 13店舗
熊本県： 13店舗
大分県： 9店舗
宮崎県： 7店舗
鹿児島県： 12店舗
沖縄県： 18店舗

合計： 126店舗

四国エリア

徳島県： 5店舗
香川県： 4店舗
愛媛県： 10店舗
高知県： 2店舗

合計： 21店舗

中国エリア

鳥取県： 4店舗
島根県： 5店舗
岡山県： 12店舗
広島県： 29店舗
山口県： 10店舗

合計： 60店舗

北陸/甲信越エリア

新潟県： 18店舗
富山県： 7店舗
石川県： 10店舗
福井県： 5店舗
山梨県： 4店舗
長野県： 15店舗

合計： 59店舗

北海道/東北エリア

北海道： 36店舗
青森県： 7店舗
岩手県： 6店舗
宮城県： 21店舗
秋田県： 6店舗
山形県： 4店舗
福島県： 10店舗

合計： 90店舗

関東エリア

茨城県： 16店舗
栃木県： 10店舗
群馬県： 9店舗
埼玉県： 66店舗
千葉県： 49店舗
東京都： 169店舗
神奈川県： 75店舗

合計： 394店舗

東海エリア

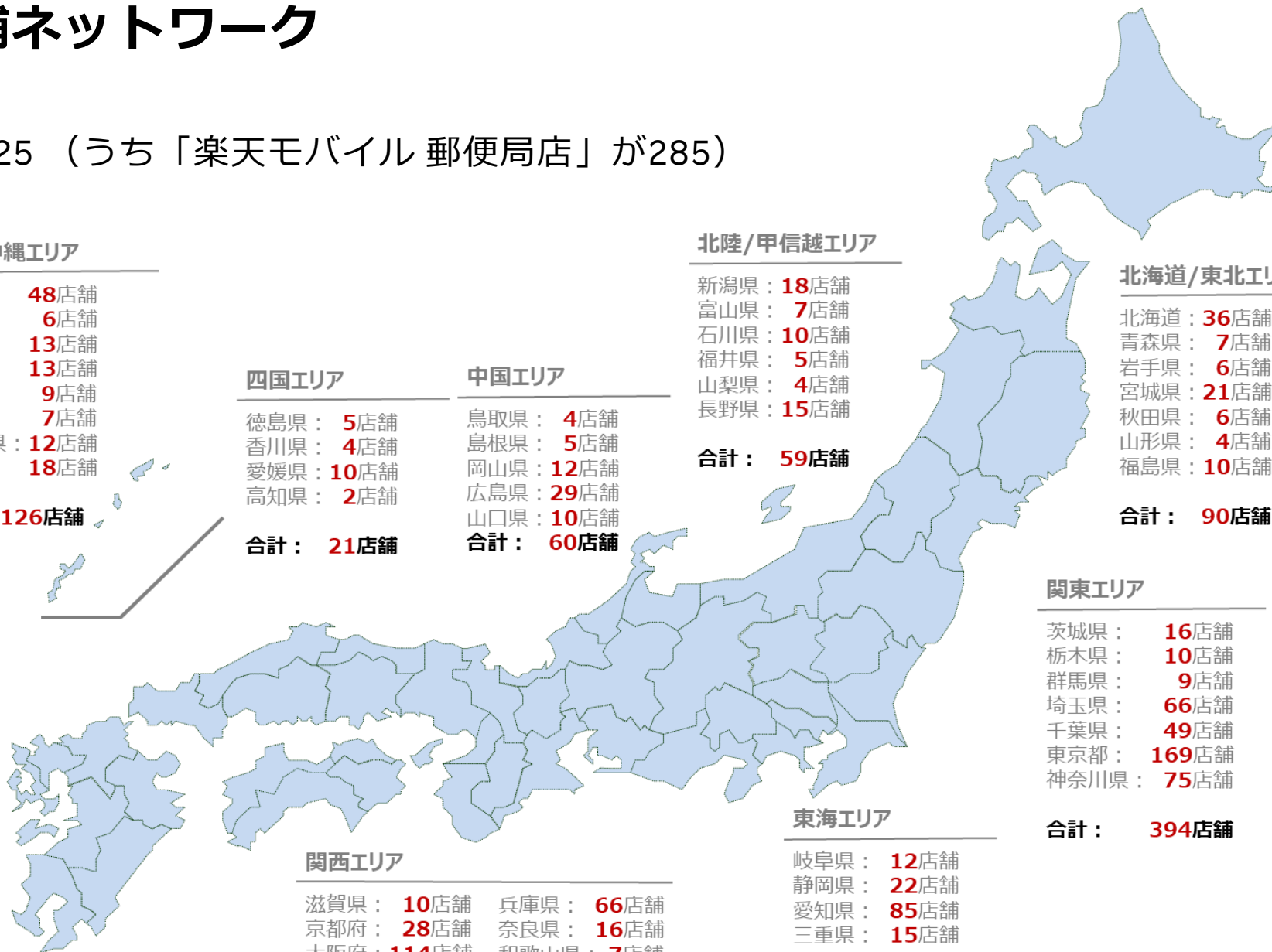
岐阜県： 12店舗
静岡県： 22店舗
愛知県： 85店舗
三重県： 15店舗

合計： 134店舗

関西エリア

滋賀県： 10店舗
京都府： 28店舗
大阪府： 114店舗
兵庫県： 66店舗
奈良県： 16店舗
和歌山県： 7店舗

合計： 241店舗



楽天シンフォニー

最近のハイライト



楽天モバイルは二年連続で世界モバイル賞（GMO : Global Mobile Award）を受賞しました。

楽天シンフォニーは、次世代の通信事業プラットフォームであるSymworldのビジネスを開始すると共に、楽天シンフォニーのウェブサイトも立ち上げました。

買収済



Symcloudビジネス提供
エッジクラウドの
展開のため買収

協力関係



ネットワーク設計および通信事業者向けソリューション構築で協業

合意覚書締結済



楽天グループは、Cisco社のパケット・コアのOEMを通じて、OEM、ORAN、及びOSSの共同販売及びCisco社とGTM（Go to market）戦略協力に合意

合意覚書締結済



三カ国におけるOpen RANシステムの試用実験

協力関係










ノキア社のクラウド・ネイティブ・コア・ソフトウェアの全ては、SymWorldで利用可能予定

Ajit Pai氏による取締役会の参加



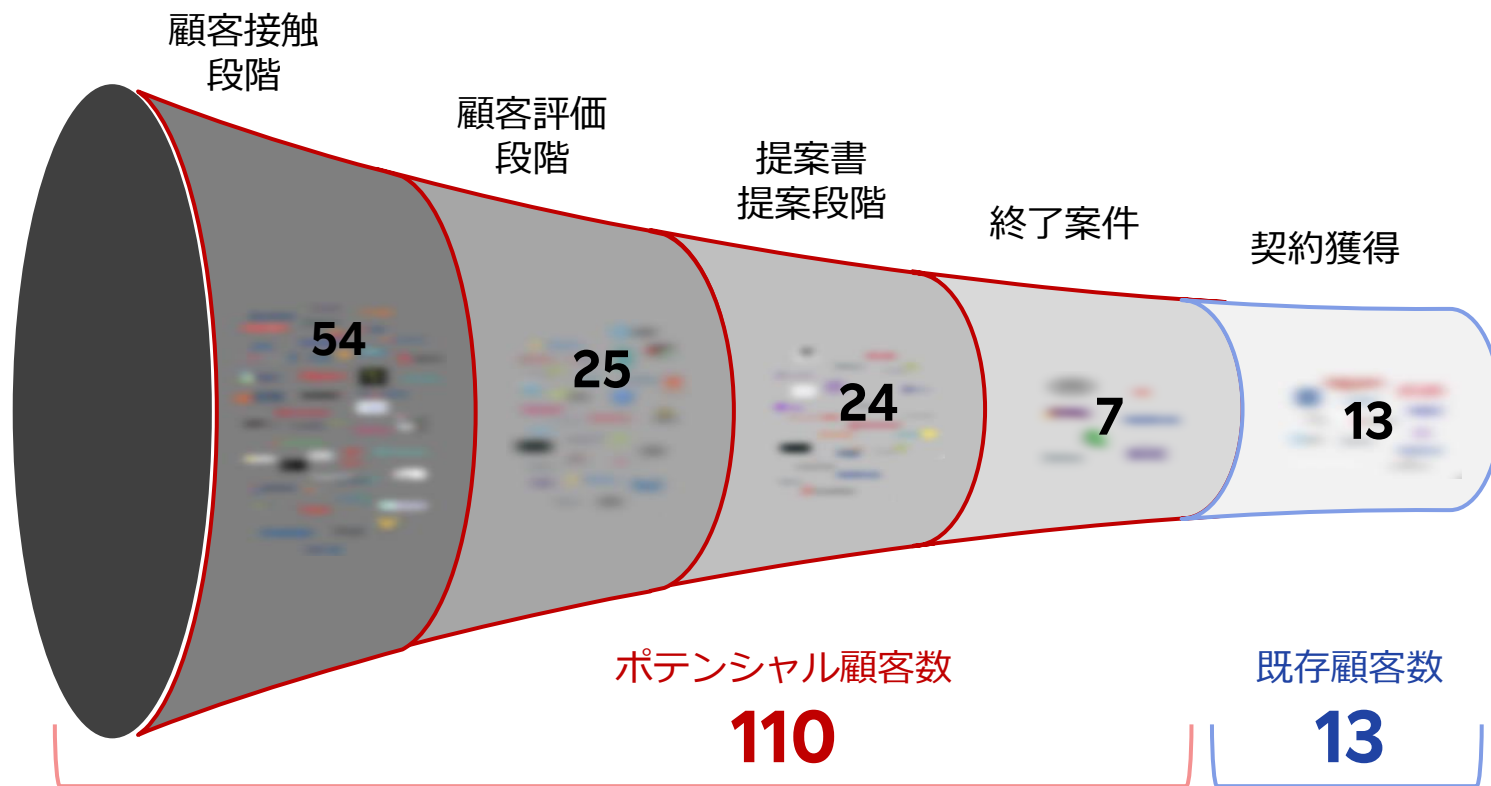
元連邦通信委員会委員長 Ajit Pai氏が楽天シンフォニー取締役に就任

次世代の通信業界に必要な クラウドベースのネットワーク・ライフ・サイクル管理プラットフォームを提供

 デジタル スタジオ	Symworld エクスペリエンス							
	グラフィカル・ユーザー・インターフェイス (GUI)			アプリケーション・プログラミング・インターフェイス (API)			コマンドライン・インターフェイス (CLI)	
 インテリジェント オペレーション	Symplan NW計画アプリ セット	Symbuild NWビルド&デブ ロイアプリセット	Symops NWオペレーショ ンアプリセット	 デジタル体験	Symcare カスタマーサポー トアプリセット	Symex NWマネタイズア プリセット	 インターネット ・エコシステム	Symbiz エンタープライズ アプリセット
 プラット フォーム	Symworld プラットフォーム							
	CI/CD	ワークフロー 管理	API管理	データ管理	自動化とAI	デジタルエンゲー ジメント	セキュリ ティ管理	ドキュメンテー ション機能
 ネットワー ク機能	Symnet							
	4G vRAN	5G vRAN	リファレンスデザイン	Symware	コア	エッジ		
 統合クラウド	Symcloud							
	クラウドインフラ	アプリ対応クラウド-ストレージ	クラウドオーケストレーション	マネージド・サービスとXaaS				

- 「ロビン社」の買収により、ユニファイドクラウドが強化されました。

楽天シンフォニーの顧客パイプライン



パイプライン
総顧客数

123

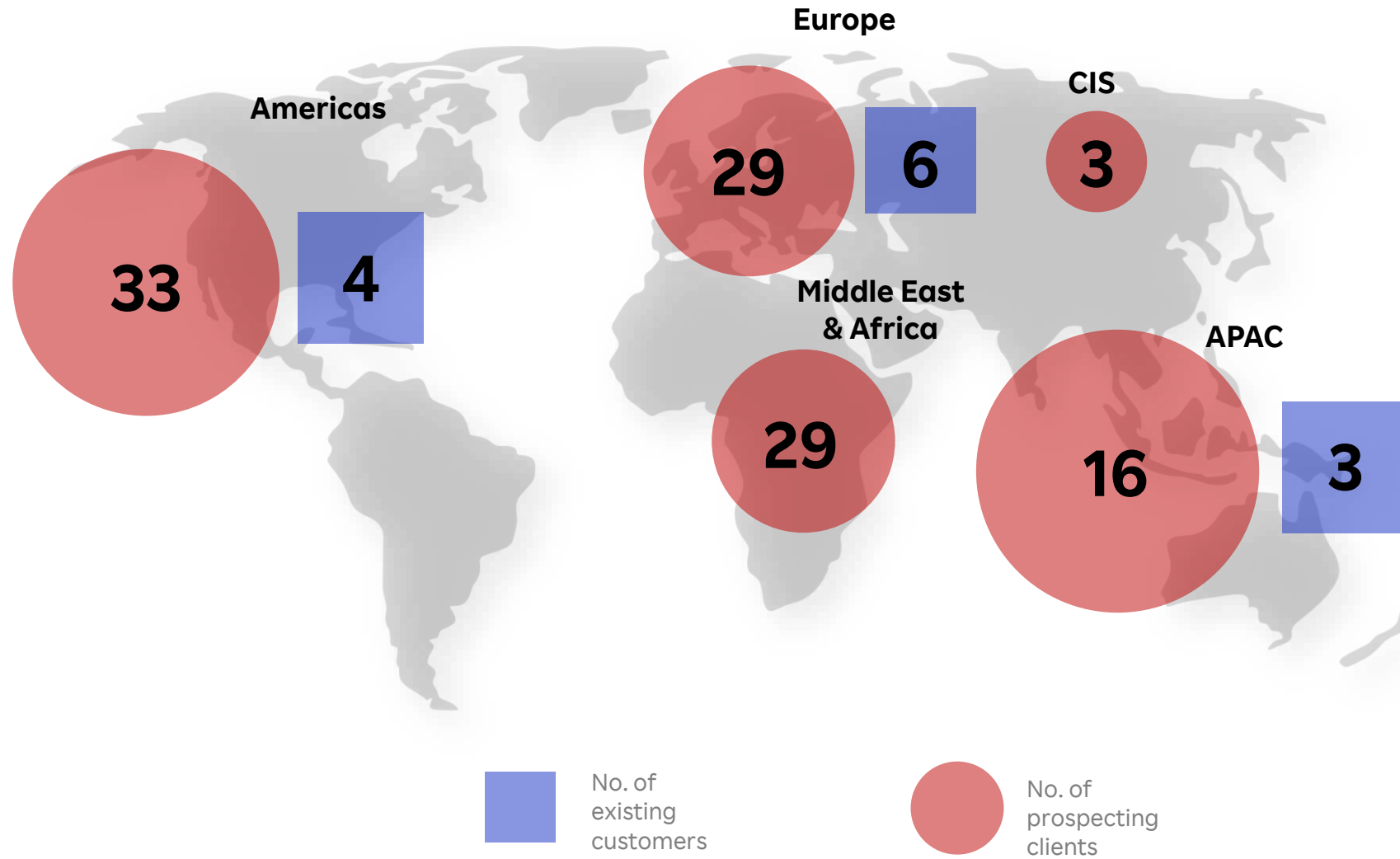
50%はvRAN関連

20%は人口知能・オペレーション関連

19%はE2E関連

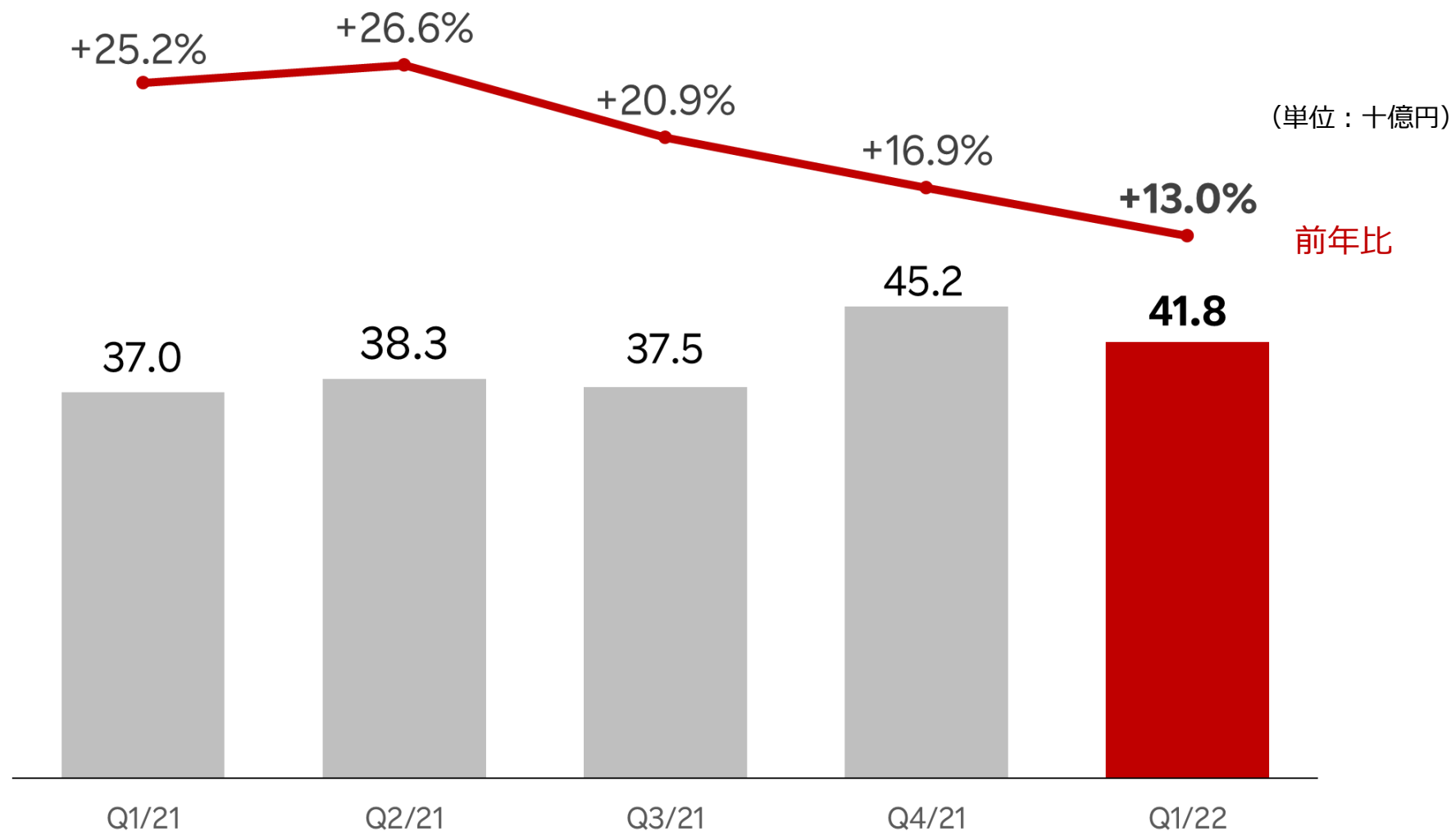
9%は人工知能・オペレーションとvRAN関連の混合

楽天シンフォニーの既存顧客及び地域別顧客パイプライン



広告事業

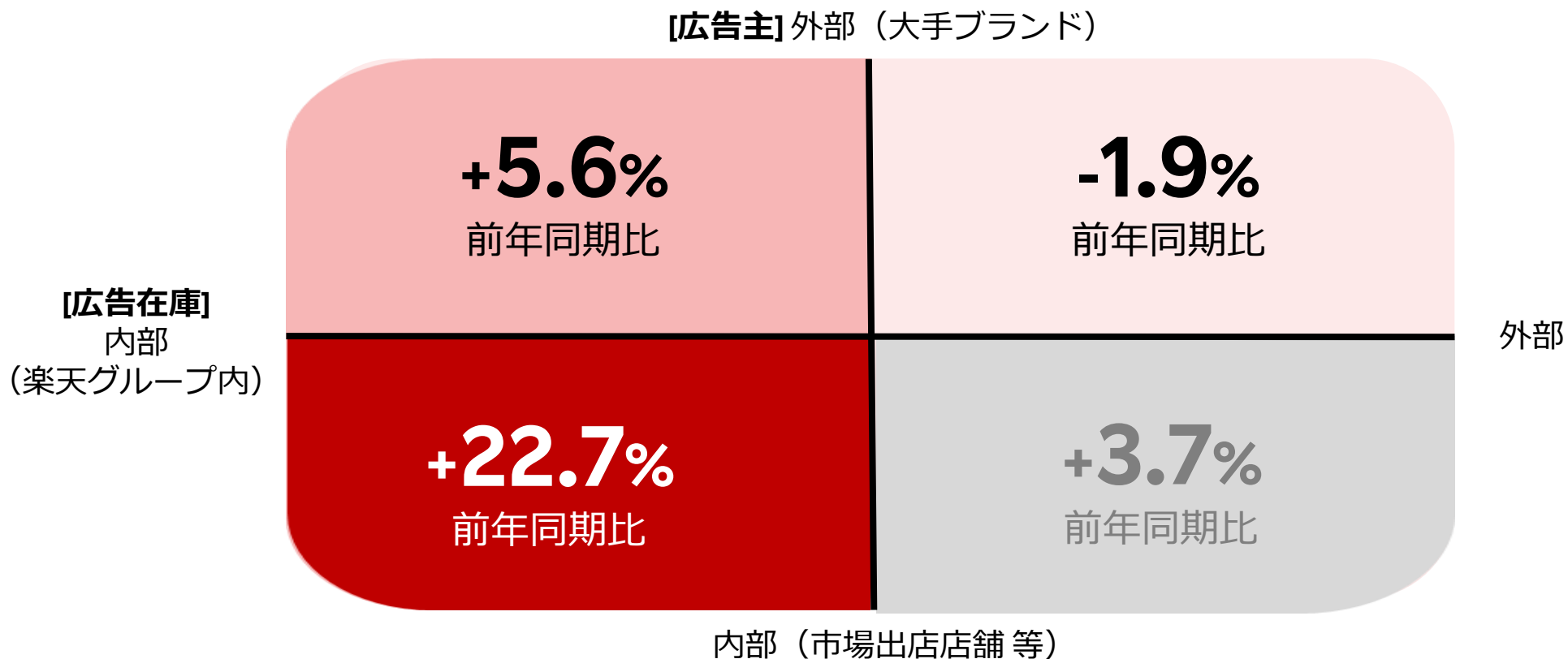
広告事業 売上収益*



* 内部取引含む取扱高

広告事業 Q1/22 成長率分析

EC事業の好調を受け楽天市場など、楽天グループ内における広告売上高が順調に拡大



Rakuten

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご了承ください。文中に記載の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。